

○横田氏曰ク公判手續第三段落法律ノ辯論治罪法講義第三卷第百九十二、三、六、五、六葉

一 第三百三十條第一項第三百五十三條第一項第三百九十八條第一項ハ總テ同文ナリ唯第三百九十八條第一項ニハ辯論終結ノ言渡アリタル時ハ云々トアリ即チ重罪輕罪違警罪ニ拘ハラス事實ノ辯論ヲ終リタル後檢察官法律ノ適用ヲ請求スルニ付キ被告事件ヲ約言シ其證憑ヲ辯明セサル可カラス

二 被告人及ヒ辯護人ハ被告事件ノ約言證憑ノ辯明及ヒ法律ノ適用ニ付キ檢察官ノ請求不當ナルヲ答辯スルヲ得但第三百三十條第三百五十三條ニ依ルキハ檢察官意見ヲ陳述シタル後民事原告人陳述

○公判手續第四段落私訴ノ辯論

三 後被告人等答辯ヲ爲シ又民事原告人陳述ヲ爲シタル後被告人等答辯ヲ爲ス可キノ文意ナリトス第三百九十八條第三百九十九條ハ其順序判然タリ

三 檢察官被告人等互ニ復答スルヲ得又辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ發言セシムルヲ等ハ通則第三百條ニ明文アリ同條ハ證憑調濟後ノ手續ナリト雖モ公訴ノ辯論ト私訴ノ辯論トヲ混淆シテ記載セリ宜ク注意セサル可カラス

一 公訴ニ付キ法律ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人被告事件即チ犯罪ニ因リ生シタル一切ノ損害ヲ陳述シ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲シ原告被告共ニ證據及ヒ證人ヲ差出シ又ハ裁判所ニ於テ鑑定ヲ爲サシムル等總テ通常民事ノ手續ニ異ナルヲナカル可シ第三百三十條第二項以下第三百五十三條第二項以下第三百九十九條第一項ハ各少シク文異ナルモ意同シ

二 私訴ニ付テハ檢察官毫モ訴訟關係人タルノ權ヲ有セズ單ニ裁判監察人タルノ權ヲ有スルニ過キス故ニ私訴ノ辯論ヲ終リタル後其意見ヲ陳述スルニ止ル私訴ノ原告被告ハ檢察官ノ意見ニ對シ辯論スル

一 公訴ニ付キ法律ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人被告事件即チ犯罪ニ因リ生シタル一切ノ損害ヲ陳述シ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲シ原告被告共ニ證據及ヒ證人ヲ差出シ又ハ裁判所ニ於テ鑑定ヲ爲サシムル等總テ通常民事ノ手續ニ異ナルヲナカル可シ第三百三十條第二項以下第三百五十三條第二項以下第三百九十九條第一項ハ各少シク文異ナルモ意同シ

二 私訴ニ付テハ檢察官毫モ訴訟關係人タルノ權ヲ有セズ單ニ裁判監察人タルノ權ヲ有スルニ過キス故ニ私訴ノ辯論ヲ終リタル後其意見ヲ陳述スルニ止ル私訴ノ原告被告ハ檢察官ノ意見ニ對シ辯論スル

○私訴ノ辯論延期

一 公訴ノ判決アルマテ私訴ノ辯論ヲ延期スルコトアルハ固ヨリ説明ヲ待タサル可シ第三百九十九條末項ハ公訴ノ判決後ニ私訴ノ辯論ヲ延期シ刑事裁判所ニ於テ公訴ト私訴ト別ニ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ謂フ此規則ハ輕罪又ハ違警罪ノ公判ニモ之ヲ適用スルコトヲ得ヘシ然レモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事

件ニ付テハ頗ル被告人ノ爲メ不便ナルコトアリ注意セサル可カラヌ何トナレハ公訴ニ付キ刑ノ言渡確定シタルキハ被告人其執行ヲ受ク可キヲ以テ別段代人ヲシテ私訴ノ答辯ヲ爲サシメサル可カラヌ就中重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ治産ノ禁ヲ受ク可キヲ以テ幼年者ト均シク自ラ私訴ノ對手人ト爲ルコトヲ得サル可シ

二 重罪裁判所ニ於テ私訴ヲ延期スルモ其閉廳前之ヲ判決ス可キノ明文アリ頗ル私訴ヲ裁判スルニ付テノ差岡ノ期限ト牴觸スルコトアル可キヲ覺フ高等法院ニ於テモ亦同シ故ニ差岡ノ期限閉廳後ニ及フコトアラハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ニ於テ之ヲ裁

判セシムルヲ以テ最モ條理ニ適スルモノトス其始審終審ハ通常ノ規則ニ從フ可キハ言ヲ待タサルナリ輕罪裁判所違警罪裁判所ノ如キハ常立ナルヲ以テ此ノ如キ不都合ナカル可シ

○井田氏曰ク公訴ニ付キ辯論全ク終結シタル時ハ私訴ノ辯論ニ取掛リ民事ノ關係人ヲシテ各陳述ヲ爲サシム○檢察官ハ民事ノ關係人ニ非サルヲ以テ止タ最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ○私訴ニ付キ取調未タ充分ナラサル時ハ先ツ公訴ノ裁判ヲナシ後日私訴ヲ審理スルコトヲ得治罪法釋要第百九十六、七條

○長井氏曰ク本條モ亦前條ト同シク既ニ第三百九十六條ノ場合ニ於テ討論ヲ遂ケタル事實ニ付キ民事上責任ノ

生スルヤ否ヲ論スルナリ但シ前條並ニ本條ノ場合共ニ事實未タ確定セサルヲ以テ各己レノ利益タルヘキ見ヲ下シテ之ニ法律ノ適用ヲ論スルニ過キサルナリ治罪法註釋第三百十七

○織田氏曰ク私訴ハ公訴ト同時ニ爲ス可キヲ以テ刑法適用ニ付テノ辯論終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其要償ノ意見ヲ陳述ス可シ但シ被告人辯護人並ニ民事擔當人ハ要償ヲ爲スノ不當ナルヲ又ハ金額過分ナル等ノ答辯ヲ爲スヲ得ルナリ○檢察官ハ賠償ノヲニ付テハ其職務ノ爲メ最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ○私訴ノ裁判ハ公訴ノ裁判ト同一ニ之ヲ爲スニ付キ或ル場合ニ於テハ私訴ノ辯論ヲ延期セサルヲ得サルヲアリ但シ重罪裁

判所ハ常時之ヲ開カサルニ因リ閉廳前之ヲ判決ス可シ○本條ニ所謂ル賠償ノ事ニ關シテハ檢察官ハ決シテ請求人ニ非ス又對手人ニモ非サルヲ以テ民事ニ於ケルカ如ク獨リ正道公義ノ爲メ最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ檢察官ハ裁判所ノ所見ニ信委スルヲ陳スルヲ得是レ斯ノ如キ場合ニ於テハ充分ナル陳述ナリトス治罪法註釋第六百四十一、二、三條○詳解ニ曰ク本條ハ私訴ニ付テノ辯論ノ手續ヲ示シタルモノナリ同私訴ニ付キ民事原告人陳述ヲナシ被告人辯護人及ヒ民事擔當人答辯ヲ爲スヘキハ素ヨリ當然ナレトモ檢察官ハ毫モ私訴ニ關係ヲ有セサルモノナルニ之ニ付キ意見ヲ陳述ス可キヲ定メタル所以如何答唯公道正義ヲ求ムルカ爲メ之カ意見ヲ陳述スルモノトス治罪法詳解第

○森氏曰ク法律適用ニ付テノ辯論終リタル後民事原告人ハ要償ノ事ニ付テ意見ヲ陳述ス可シ被告人辯護人民事擔當人ハ民事原告人ノ請求スル所不當ナリト思料スレハ辯駁ヲ爲スヲ得○檢察官ハ私訴ニ付キ原告又ハ被告ノ位地ニ在ラサレトモ唯タ公益ヲ保護スル職務ノ爲メニ其意見ヲ陳述スヘシ○私訴ノ裁判ハ公訴ノ裁判ト同時ニ爲スヘシト雖モ都合ニヨリ私訴ノ辯論ヲ延期スルヲ得但シ重罪裁判所ハ常ニ開應セサルヲ以テ其閉廳前ニ必ス判決ヲ爲ス可シ治罪法註解大成
第二百四十號

第四百條

編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

被告事件重罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ
又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

(註)本條ハ刑ノ言渡及ヒ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ヲ定ム重罪裁判所ニ於テ訊問辯論ヲ終リタル後被告事件重罪ニシテ且犯罪ノ証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ヲ言渡ス可シ又第二百二十四條以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス是レ第三百三十五條第二項第三百三十六條第三百五十八條第二項第三百六十四條第一項ト其趣意ヲ同フス故ニ又之レカ説明ヲ下タサス然ルニ若シ被告事件違警罪又ハ輕罪ナル

時モ亦重罪裁判所ニ於テハ管轄違ノ言渡ヲ爲サス刑
ノ言渡ヲ爲ス可キ者ト解ス可シ

一 刑ノ言渡免訴ノ言渡ノ解

○村田氏曰ク被告事件重罪タルノ証憑充分ナル時ハ刑法
ヲ擬定シテ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ第二百二十四條第三以
下ノ場合ハ其所爲アルモ期滿免除ノ原由等ニ因リ訴ノ
成立セサルヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲シ即時ニ被告人ヲ放
免セサル可カラス 治罪法註釋第七
卷第三十八葉

○薩埵氏曰ク此條第一項ハ刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニシテ第
二項ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ナリ○以上掲ケタル手續
ヲ履行シタル後被告事件重罪ニシテ証憑充分ナルヲ
認メタル時ハ法律ニ從ヒ刑ヲ言渡サヽル可カラス然レ

ト向キニ第三百六十四條ノ註釋ニ於テ掲ケタル如ク土
地ニ因レル管轄違及ヒ高等法院若クハ陸海軍裁判所ノ
管轄ニ屬スル者ハ仮令ヒ重罪ニシテ証憑充分ナルモ仍
ホ管轄違ノ言渡ヲ爲サヽル可カラサルナリ○今此ニ一
疑問アリ其被告事件重罪ニ非サルモ輕罪若クハ違警罪
ノ証憑充分ナル時ハ重罪裁判所ニ於テ如何ナル言渡ヲ
爲ス可キ乎ノ件即チ是ナリ若シ同一ノ被告人ニ對シ同
時ニ重罪及ヒ輕罪若クハ違警罪ノ訴アリシモハ第三十
八條ニ於テ上等ノ裁判所之ヲ管轄スルノ明文アレモ其
初メ重罪ナリトシテ訴アリシ事件審理ノ末輕罪若クハ
違警罪ニ變セシ場合ニ之ヲ管轄スルノ明文ナキヲ以テ
此疑問アルナリ然レモ大ハ小ヲ包ヌルノ原則ヲ推シ且

ッ第三百五十九條ノ精神ヲ考フル時ハ重罪裁判所ニ於テ之カ終審ノ裁判言渡ヲ爲シ得可キヲ論ヲ俟タス何トナレハ其初メ輕罪ナリトシテ輕罪裁判所ニ訴ヘラレヌル事件審理ノ後違警罪トナリシキハ輕罪裁判所ニ於テ之カ終審裁判ヲ言渡スヲ得ル事ハ第三百五十九條ニ於テ之カ明文アリ然ラハ則チ重罪裁判所ニ於テ違警罪ハ勿論輕罪ニ就テモ亦終審ノ言渡ヲ爲スヲ得サル可カラサレハナリ然レモ法文ノ完全ヲ欲スル時ハ此條重罪ニシテ且ノ六字ヲ削リ犯罪ヲ証憑云々ト改ムルヲ可トス

○此條第二項ニ於テハ向キニ第三百三十五條ニ掲ケタル所ト同一ノ疑ヲ生ス即チ第二百二十四條第二ノ場合ニ於テハ無罪ノ言渡ヲ爲ス可キ乎將タ免訴ノ言渡ヲ爲

ス可キ乎ノ件是ナリ其詳細ハ既ニ第三百三十五條ニ於テ詳説シタルハ復タ此ニ之ヲ贅セズ隨聽隨筆第二十五號第三十二、三、四、五號

○長井氏曰ク第三百三十六條ヲ見合スヘシ治罪法註釋第三百十七號

○織田氏曰ク被告事件重罪ニシテ其証憑充分ナル時ハ刑法ヲ擬定シテ刑ノ言渡ヲ爲ス可キナリ○第二百二十四條第三以下ノ場合ハ被告人ノ所爲重罪ニシテ充分ノ証憑アルモ期滿免除ノ原由等ニ因リ免訴ノ言渡ヲ爲シ速ニ被告人ヲ放免ス可シ○本條ニ定ムル所ハ大ニ時日ヲ費消シ以テ訴訟手續ヲ行フノ目的ヲ達セシムルモノナリ故ニ其結果至テ重要ナリト雖モ前既ニ詳説ヲ掲クシテハ再ヒ茲ニ復説セズ治罪法註釋第六百四十三、四號

○詳解ニ曰ク本條ノ旨趣ハ別ニ解説ヲ須ヒスシテ判然ナ

ルヘケレハ敢テ贅セス 治罪法詳解第十
八號第四十七條

○森氏曰ク被告事件重罪ニシテ其証憑充分ナル時ハ刑ヲ

言渡ス可シ○被告事件重罪ナリト雖モ第二百二十四條

第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告入ヲ

放免スルノ言渡ヲ爲ス可シ 治罪法註詳大成
第二百四十條

編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

第四百一條

犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ且被

告人ヲ放免ス可シ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁

判言渡ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ無罪ノ言渡ヲ爲ス可キ場合及ヒ要償ノ裁判ニ

關スル規則ヲ定ム無罪ノ言渡ヲ爲ス可キ場合ハ第三

百三十五條第一項及ヒ第三百五十八條第一項ト同一

ノ趣意ナリ故ニ復々説明ヲ下タサス

第二項刑事附帶ノ私訴ハ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲

シタル時ハ私訴ノ名稱ハ忽チ消滅スト雖モ其實ニ至

テ猶ホ存スルヲハ第八條ニ因テ明ナリ故ニ公訴ニ付

無罪ノ言渡ヲ爲スモ猶ホ重罪裁判所ニ於テ原被ノ要

償ニ付裁判言渡ヲ爲サシムルナリ又私訴ニ非ラズシ

テ第十六條ノ要償ノ如キ者モ本條要償ノ中ニ包括ス

此規則ハ重罪裁判所ノミナラス輕罪違警罪裁判所ニ

モ行ハサル可カラサル者ナリ而テ本條ニノミ之レア

リテ他ニ之レナキハ如何ノ要償云々ノトハ當然ノト

ニシテ別ニ明文ヲ要セス只本條ニ必要ナルハ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ閉廳前ニ其裁判ヲ爲ス可キトニ在ルノミ

一 無罪ノ言渡原被要償ノ言渡ノ解

○村田氏曰ク犯罪ノ所爲アリト認ムルモ其証憑充分ナラサル時ハ之ヲ罰ス可キノ理由ナシトス依テ無罪ノ言渡ヲ爲シ被告人ヲ放免ス可シ○無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ被告人ハ必スシモ賠償ノ責ヲ免ルハ不能ハサル場合アリ〔第八條參看〕又無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ナルヲ申立賠償ヲ要求スルコトアリ〔第十六條參看〕裁判所ニ於テハ原告被告ヨリ申立ル此二箇ノ訴ヲ裁判ス可キ者トス

治罪法註釋第七卷第三十八、九條

○薩埵氏曰ク此條第一項ハ犯罪ノ証憑不充分ナル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲ス可キ事ヲ規定シ第二項ニハ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ拘ハラヌ要償ニ付テノ裁判言渡ヲ爲ス可キ事ヲ規定シタルモノナリ○此條第一項ハ亦第三百三十五條ニ詳説セシ所ト同一ナルヲ以テ此ニ之ヲ贅セス○被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙トナラサル事ハ第八條ニ定ムル所ノ原則ナリ故ニ今此條ニ於テモ此原則ヲ適用シ被告人ニ無罪ノ言渡ヲ爲スモ仍ホ要償ニ付キ裁判言渡ヲ爲ス可キモノトセリ而シテ之ヲ爲スニハ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ之カ辯論ヲ爲ス可キモノトセリ○然ルニ此ニ一言セサル可カラサルコトアリ即チ此條第二項ニハ原被

ノ要償トアリ原告ノ要償トハ第二條ニ所謂ル私訴ニシテ
 贓物ノ返還ト損害ノ賠償トヲ云フ又被告ノ要償トハ
 第十六條ニ掲ケタル損害ノ要償ヲ云フ而シテ第三百九
 十九條ハ私訴即チ民事原告人ヨリ請求スル所ノ償還ノ
 ミヲ見倣シテ設ケタルモノナレハ先ツ第一ニ民事原告
 人ヲシテ陳述セシメ次ニ被告人辯護人及ヒ民事擔當人
 ヲシテ答辯セシムルモノトセリ是其原告ヨリシテ先ツ
 其請求スル所ヲ述ヘ被告ノ之ニ答辯スルハ至當ノ順序
 ナレハナリ然レモ被告ヨリ請求スル所ノ要償ニ付テハ
 原告被告其地ヲ變ヘ被告人之カ原告人トナリ民事原告
 人却テ之カ被告人トナル仍テ此場合ニハ被告人先ツ其
 請求スル所ヲ陳述シ次ニ民事原告人之カ答辯ヲ爲スヲ

至當トス○第八條ノ原則ニ據レハ被告人免訴又ハ無罪
 ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムル
 ヲ得ルモノトシ又第十六條ニ據レハ被告人免訴又ハ無
 罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人告發人又ハ民事
 原告人ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルヲ得ルモノトセリ然
 ラハ則チ前條第二項ノ場合即チ免訴ノ言渡ヲ爲シタル
 場合ニ於テモ亦要償ニ付テノ裁判言渡ニ關スル規則ヲ
 必要トス然ルニ獨リ此條ニノミ之ヲ掲ケタルハ或ハ編
 纂其宜ヲ得サルモノ、如シ加之ナラス此規則ハ獨リ重
 罪ノ場合ノミナラス輕罪違警罪(但シ當分警察署ニテ管
 轄スル場合ハ之ヲ除ク)ニモ亦通シ用フ可キモノナレハ
 余ハ其文ヲ少シク改メテ公判通則ノ中ニ掲クルヲ可ト

ス○或曰治罪法第二條ニ據レハ私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トス云々トアリ因之觀之ハ私訴ハ必ス犯罪ニ原因セシ賠償返還ニ限ルモノトセサル可カラス然ルニ最初犯罪ニ原由セシモノトシテ訴アリシモ審理ノ後無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲セシキハ其損害ハ犯罪ニ原由セシモノニ非ス既ニ犯罪ニ原由セサルモノトセン手則チ私訴ニ非スシテ純然タル民事ノ訴ナリ純然タル民事ハ獨リ民事裁判所ノ與カル所ニシテ刑事裁判所ノ與カル所ニ非ス〔第四條參看〕然ルニ刑事裁判所ニテ仍ホ之ヲ裁判スルヲ得ルモノトシタルハ何ソヤト余曰ク私訴ハ犯罪ニ原由シタルモノナルヲハ或者ノ説ノ如シ而シテ之ヲ刑事裁判所ニ於テ併セ裁判

スルハ畢竟實際ニ便益アルカ爲メナリ然ルニ若シ其公訴ノ無罪又ハ免訴ニ歸シタル時私訴ハ之ヲ裁判スルヲ得ストセハ更ニ民事裁判所ニ起訴シテ新ニ其手續ヲ履マサル可カラス果シテ然ラハ之カ爲メ無益ノ費用ト無用ノ日子ヲ消費セサル可カラス夫レ斯ノ如クセハ其初メ便益ヲ旨トセシモノモ今ハ却テ不便ノ甚タシキモノトナラン故ニ其初メ私訴ヲ名トシテ訴出テタルニ於テハ縦令ヒ後ニ純然タル民事ノ訴ニ變スルモ其刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得ルモノトシタルハ是實際ノ便益ニ基キタル良法ト謂フ可キナリ（隨聽隨筆第二十五號第三十八、九、四十二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、二、三、四、五、六、七）

○横田氏曰ク裁判言渡ノ種類及ヒ定限（治罪法講義第三卷第二百八、九、十、十一、二、三、四、五、六、七）

一

刑ノ言渡ハ犯罪ノ證據ナキ者ハ言ヲ待タズ證據ノ充分ナラサル者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ證據ノ充分ナルト否トハ裁判官ノ判定ニ任スト雖モ刑事證據法ノ主義ニ基キ證據ニ依ラスシテ有罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス違警罪裁判所ニ於テハ有罪ノ證據アリト雖モ違警罪及ヒ直ニ裁判スルコトヲ得ヘキ輕罪ニ非サシハ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス輕罪裁判所ニ於テハ輕罪ハ言ヲ待タズ違警罪ニ付テモ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得第一輕罪違警罪俱發シタルキハ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スルハ第三十八條ニ明文アリ第二輕罪トシテ訴アリタル事件違警罪ニ歸シタルキハ直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキ

ハ第三百五十九條ニ明文アリ第三公廷内ニ於テ犯シタル違警罪モ亦直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第二百七十三條ニ明文アリ如何ナル場合ニ於テモ輕罪裁判所ニ於テ爲シタル違警罪ノ裁判ハ終審ナリトス重罪裁判所ニ於テハ重罪ハ言ヲ待タズ輕罪以下ニ付テモ直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得第一重罪輕罪俱發シタルキハ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スルハ第三十八條ニ明文アリ第二輕罪ノ公判ニ付キ第三百五十九條ノ明文アリテ重罪ノ公判ニ付キ輕下ノ事件ニ付キ直ニ刑ノ言渡ヲ爲ス可キノ明文ナキハ法罪以律ノ疎漏ナルヲ免カレンス第三公廷内ニ於テ犯シタル輕罪以下ノ事件ハ直ニ刑ノ言渡

二

ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第二百七十三條ニ明文アリ
 無罪ノ言渡ハ犯罪ノ證據ナキ者ハ言ヲ待タス證據
 ノ充分ナラサル者ニ付テモ之ヲ爲サレ可カラズ
 無罪ノ言渡ヲ爲シタルキハ被告人ヲ放免ス可キハ
 言ヲ待タス第三百三十五條第一項第三百五十八條
 第一項第四百一條第一項共ニ同文ナリ唯違警罪ニ
 付テハ勾留ス可カラサルヲ以テ放免ス可キコトナシ
 輕罪ニ付テハ勾留スルト勾留セサルトアルヲ以テ
 被告人勾留ヲ受ケタルキハ放免ス可キノ明文アリ
 重罪ニ付テハ必ス勾留ス可キヲ以テ必ス放免ス可
 キノ明文アリ裁判ハ再セサルノ原則ニ因リ無罪ノ
 言渡確定シタルキハ如何ナル證據アリト雖モ公訴

三

既ニ消滅ス可キヲ以テ法官タル者宜ク注意ス可キ
 コアリ即チ檢察官ハ證據ノ不充分ナル可キ事件ニ
 付キ強テ起訴ヲ爲サレルヲ要ス何トナレハ豫審ニ
 於テ免訴ノ言渡アリタルキハ新ナル證據アリト雖
 モ會議局ノ判決ヲ經サレハ更ニ起訴ヲ爲スコトヲ得
 ス豫審判事ハ證據ノ不充分ナル事件ニ付キ強テ送
 付ノ言渡ヲ爲サレルヲ要ス何トナレハ公判ニ於テ
 無罪ノ言渡アリタルキハ假令新ナル證據アリト雖
 モ更ニ其取調ヲ爲スコトヲ得サル可シ其被告人ニ不
 利益ナル處分ハ却テ社會ノ不利益ナル處分タルハ
 頗ル法律ノ妙用ナリトス
 免訴ノ言渡ハ犯罪ノ有無輕重ヲ判決スルコトヲ要セ

四

サル場合ニ於テ之ヲ爲ス可キモノトス第三百三十
 五條第二項第三百五十八條第二項第四百條第二項
 共ニ同文ナリ其被告人ヲ放免スルハ無罪ノ言渡アリ
 リタル場合ニ同シ法律ニ明文ナシト雖モ犯罪ノ有
 無輕重ヲ判決スルコトヲ要セサル事件ニシテ免訴ノ
 言渡ヲ爲サスシテ單ニ棄却ノ言渡ヲ爲ス可キコトアリ
 リ即チ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付キ告訴ナク
 シテ訴アリタル場合是ナリ若シ此場合ニ於テ免訴
 ノ言渡ヲ爲シタルキハ後ニ被害者ノ告訴アルモ確
 定裁判ニ依リ公訴既ニ消滅シタルヲ以テ更ニ訴ヲ
 爲スコトヲ得サル可シ

管轄違ノ言渡ハ單リ第三百三十七條第三百六十條

以下ニ犯罪ノ種類ニ付テノ管轄違ノミヲ掲載シ其
 他ノ管轄違ヲ脱漏セリ抑モ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ
 付キ注意ス可キハ若シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者
 ニシテ檢察官ノ請求アリタルキハ如何ナル管轄違
 ト雖モ勾留狀ヲ發スルコト是ナリ即チ違警罪ノ公判
 ニ於テモ犯罪ノ種類ノ管轄違ニ付テハ第三百三十
 七條但書ニ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ヘ
 キノ明文アリ況ヤ輕罪以上ノ公判ニ於テ此處分ヲ
 爲スコトヲ得ヘキハ言ヲ待タズ豫審ニ於テハ如何ナ
 ル管轄違ト雖モ此處分ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第二百
 二十八條第二項ノ法文ニテ判然タリ總テ管轄違ニ
 付テハ單ニ其裁判所ノ管轄ニ非サルコトヲ言渡スノ

ミニテ別段其管轄裁判所ヲ定示スルニ非ス然レモ
 輕罪裁判所ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスルモ未
 タ豫審ヲ經サルキハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ
 爲シ若シ豫審ヲ經タルキハ其裁判所ノ會議局ニ送
 付スルノ言渡ヲ爲ス可キトヲ定ム第三百六十條第
 一項但書被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルト及ヒ同條
 第二項檢察官ヨリ訴訟書類及ヒ證據物件ヲ送致ス
 ルトハ此二箇ノ場合共ニ同一ノ手續ナリトス但送
 付ヲ受タル豫審判事ハ通常ノ規則ニ從ヒ豫審ヲ終
 結シ會議局ニ於テハ別段判事一名ヲシテ通常ノ規
 則ニ從ヒ豫審ヲ爲サシメタル後訴訟書類及ヒ檢察
 官ノ意見書ニ依リ終結ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ第三

百六十條ニ從ヒ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲シ
 タル後豫審判事仍ホ輕罪トシテ輕罪裁判所ニ送付
 スルノ言渡アリタル場合ニ於テハ輕罪裁判所ニテ
 第三百六十一條ニ從ヒ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ
 爲ス可シ若シ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲シタル
 後會議局ニテ仍ホ輕罪トシテ輕罪裁判所ニ送付ス
 ルノ言渡アリタル場合ニ於テハ輕罪裁判所ニテ其
 管轄裁判所ヲ定示スルトヲ得ス故ニ新ナル證據ア
 リテ事實ノ變更ス可キ場合ニ非サレハ第三百六十
 二條ニ從ヒ單ニ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ過キス檢事
 ハ訴ヲ可キ裁判所ナキヲ以テ第五編第三章ニ從ヒ
 裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可キトヲ定ム然レモ

是等ノ規則ハ万一ノ場合ヲ慮リタルモノニシテ實際檢事ハ如何ナル場合ニ於テモ不當ナル送付ノ言渡ニ對シ豫メ上訴ヲ爲シ正當ナル管轄裁判所ニ訴ヲ移ス可キヲ怠ラサル可シ

五 私訴ノ言渡ハ重罪輕罪違警罪ニ拘ハラズ第三百七條ノ規則ヲ除クノ外權利義務ノ有無及ヒ訴訟ノ手續ハ總テ通常民事ノ規則ニ從フ第四百一條ハ唯私訴ニ付テモ裁判言渡ヲ爲ス可キヲ注意シタル迄ナリト雖モ其文義頗ル穩當ナラス

○裁判言渡後確定前ノ手續

一 法律ニ明文ナシト雖モ控訴ノ期限内ハ裁判執行ヲ停止ス可キハ言ヲ待タズ然レモ被告人ヲ勾留シ又

ハ保釋責付ヲ取消スノ言渡ハ其執行ヲ停止セサル可シ蓋シ公判ノ控訴ト豫審ノ故障ト其性質方法相似タルモノトス即チ第二百五十條ヲ參看ス可シ上告期限内モ亦裁判執行ヲ停止ス然レモ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ハ其執行ヲ停止セズ即チ第四百十五條ニ明文アリ茲ニ一箇ノ注意ス可キヲアリ違警罪裁判所ニテ被告事件重罪又ハ輕罪ナリトスルモ第三百三十七條但書ニ從ヒ勾留狀ヲ發スルヲ得ヘキニ因リ上訴ノ期限内ハ被告人ヲ留置スルニ妨ナカル可シ然レモ輕罪裁判所ニテ被告事件重罪ナリトスルモ第三百六十條第一項但書ニ從ヒ勾引狀ヲ發スルニ過キズ若シ上訴ノ期限内管

轉達ノ執行ヲ停止スルキハ勾引狀ノ期限ト牴觸スルニ因リ重罪ノ被告人ト雖モ之ヲ留置スルコト得サルニ似タリ蓋シ此場合ニ於テハ豫審判事ト會議局トヲ問ハス同一ノ裁判所内ニ在ルヲ以テ少シク常例ニ戻ルニ似タリト雖モ送付ヲ受ケタル豫審判事又ハ會議局ニ於テハ直ニ其事件ニ着手シ又其着手シタル後ト雖モ上訴期限内ハ上訴スルコト許サレ可カラス

二 裁判官ノ職權ハ事件ヲ受理スルニ始マリ裁判言渡ヲ爲スニ終ル然レモ被告人ヲ他ノ裁判所ニ送致ス可キ場合ヲ除ク外被告人其裁判所附ノ監倉ニ在ルキハ保釋責付ニ付キ判決ス可キノ任アリ何トナ

レハ被告人ノ心術資力ノ有無保証ノ當否等ヲ鑑定スルハ被告人所在ノ地ノ裁判所ニ非サレハ之ヲ詳悉スルニ困難ナル可シ第三百六十三條第二項第三百六十四條第二項但書等ハ此原則ニ基キタルモノトス

○井田氏曰ク第二項原被告ノ要償ト云フ即チ民事原告人ヨリ被告人ニ對シ要ムル所並ニ被告人ヨリ第十六條ニ從ヒ告訴人告發人又ハ民事原告人ニ對シ要ムル所ヲ云フ

治罪法第百九十七條

○長井氏曰ク第三百五條及ヒ第三百三十六條ヲ見合スルニ本條ニ原被告ノ要償ニ付キ云々トハ民事原告人ヨリ被告ノ無罪ニ拘ラス民事ノ責任ヲ言掛テ損害ノ賠償ヲ

要求スルヲ及ヒ被告人ヨリ民事原告人ニ對シ誣告等ノ
 廉ヲ以テ損害ノ償ヲ要求スル即チ是ナリ治罪法註釋第
三百十八條
 ○織田氏曰ク犯罪ノ所爲アリト認ムルモ其証憑充分ナラ
 サル時ハ之ヲ罰スヘキノ理由ナキニ因リ無罪ノ言渡ヲ
 爲シ被告人ヲ放免ス可シ○無罪ノ言渡アリタル場合ニ
 於テ原告被告ヨリ要償ノ訴ヲ爲スニ付キ第三百九十九
 條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲ス可キナリ○本條ハ犯罪
 ノ証憑充分ナラサル場合ヲ云フナリ此場合ニ於テハ無
 罪ノ言渡ヲ爲スノ外他ニ其方アルナシ而シテ無罪ノ言
 渡ト同時ニ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ但シ他ノ事故ニ因リ
 被告人ヲ勾留ス可キ場合ハ此限ニアラス○無罪ノ言渡
 ヲ爲シタル時ニ於テハ民事上二種ノ請求ニ付キ判決ス

ルヲアリ即チ無罪ノ言渡アルニ拘ハラズ民事上ノ過失
 ニ付キ賠償ヲ求ムルヲ得ヘキ民事原告人ノ請求並ニ告
 發人ノ惡意若クハ過失ヲ鳴スヲ得可キ被告人ノ請求
 是レナリ治罪法註釋第
六百四十四條
 ○詳解ニ曰ク本條亦タ強テ解説スヘキノ点アルヲナシ但
 シ第二項ニ原被ノ要償トアルモノハ第十六條ノ規則ニ
 從ヒ被告人ヨリナス處ノ要償ノ場合ヲモ包括シテ掲ケ
 タルモノナリ治罪法詳解第十
八號第四十七條
 ○森氏曰ク犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ罰スルヲ得ス
 故ニ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ○被告人無罪ノ言渡ヲ受ク
 ルモ民事ノ義務ヲ免ルヽヲ得サル場合アリ又民事原
 告人ノ惡意若クハ重過失ヨリ出タル時ハ被告人ヨリ賠

償ヲ求ムルコトヲ得故ニ裁判所ニ於テハ此二箇ノ要償ヲ
裁判スヘシ治罪法註解大成
第二百四十一條
編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

治罪法異同辨第九十一號

堀田正忠
高谷恒太郎 同輯

第四百二條

辯論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重
罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時
ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫
審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ
之ヲ裁判ス可シ

(註)本條ハ辯論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル
他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ノ規則ヲ定ム公訴狀
ニ記載シタル事件ニ附帶シタル他ノ事件ハ之ヲ併セ

二

裁判スルハ勿論ナリ然レ附帶ニ非ラサル餘罪發見シタルキハ各別ニ處分スルヲ本則トス然レ到底數罪俱發例ニ依リ一ノ重ニ從フ者ナリ且之ヲ併セ處分スレハ事實發見ニ便利不尠因テ辯論中ニ同一ノ被告人ノ犯セシ餘罪ヲ發見シタルキ檢察官ノ請求アリタルキハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案事件ト共ニ之ヲ裁判セシムルナリ檢察官ノ請求ヲ要スル所以ハ之レナケレハ公訴ヲ受理スルヲ能ハサルヲ以テナリ又輕罪事件ニシテ豫審ヲ要セサル者ハ檢察官ノ起訴ニ因リ直チニ本案事件ト共ニ之ヲ裁判スルヲ得ル者ト解ス可シ

一 辯論中發見セシ他ノ重罪輕罪處分ノ解

○村田氏曰ク辯論中ニ發見シタル條件ト雖モ本案ニ附帶セサル者ナル時ハ重罪裁判所ニ於テ之ヲ管轄スルノ權ナシ故ニ檢察官ノ請求ニ因リ本案ノ裁判ヲ停止シ判事一名ヲシテ其事件ニ付キ豫審ヲ爲サシメ然ル上ニテ數罪俱發從重ノ原則ニ基キ本案ノ事件ト共ニ裁判ヲ爲ス可シ 治罪法註釋第七卷第三十九條

○薩埵氏曰ク公訴狀中ニ記載シタル事件ニ付豫審ヲ要スル條件及ヒ其事件ニ附帶シタル事件ヲ辯論中ニ發見シタル場合ノ事ハ既ニ第三百九十七條ニ於テ之ヲ規定セリ今此條ハ則チ公訴狀ニ記載セス亦其記載シタルモノニ付帶セサル他ノ事件ヲ發見シタル場合ヲ規定シタル

三

四

モノナリ○凡ソ裁判所ハ辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ事件及ヒ公廷内ノ犯罪ヲ除ク外起訴ナキニ之カ裁判ヲ爲ス可カラサルハ第二百七十六條ニ定メタル原則ナリ故ニ其公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶シタル重罪輕罪ヲ發見シタル時及ヒ公廷内ノ犯罪アリシ時ハ檢察官ノ請求ナキモ之ヲ管理スルヲ得可シ(第二百七十三條以下及第二百九十七條參看)ト雖モ附帶ノ犯罪ニ非ス亦公廷内ノ犯罪ニ非サル時ハ檢察官ノ請求アルニ非サレハ決シテ之ヲ管理スルヲ得ス是此條ニ於テ檢察官ノ請求アル時ト云ヘル語アル所以ナリ○若シ檢察官ノ請求アリシ時ハ其現ニ審理中ナル本案ノ裁判ヲ一時停止スルト雖モ更ニ之ヲ管轄輕罪裁判所ノ豫審判事ニ送付スル如キ迂濶ノ手續ヲ爲サス

五

其重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ其豫審ノ終結スルヲ俟テ一時停止シタル本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判シ若シ有罪ニ決シタル時ハ其中一ノ重キ刑ヲ言渡ス可シ而シテ其豫審ノ速ニ終結セシ時ハ其開廳中ニ之ヲ裁判ス可シ又其豫審中ニ閉廳セシキハ次期ノ開廳ヲ俟テ之ヲ裁判ス可シ(聽證筆第二十、二十五號第五十一、二葉)

○横田氏曰ク辯論中新ナル証人ヲ訊問シ新ニ鑑定ヲ命シ又ハ臨檢ヲ必要トスル場合ノ處分(治罪法講義第三卷第百九十八、九、二、三、四葉)

一 訴訟關係人ハ對手人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ナル証人ヲ呼出ス可シ得サル可シ重罪ニ付テハ第三百八十四條ニ明文アリ輕罪以下ト雖モ新ナル証人ヲ呼出スニ付テハ辯論ヲ中止セサル可カラズ且對

手人ハ其証人ニ對スル辯護ノ豫備ヲ爲サ、ル可カ
 ラス故ニ重罪ト輕罪以下トヲ問ハス對手人ノ承諾
 ナキキハ裁判所ノ職權ヲ以テ事實參考ノ爲メ之ヲ
 呼出スニ過キサル可シ然レモ最初呼出ヲ請求シタ
 リト雖モ出廷ス可カラサル障礙アリタル証人其障
 礙ノ除却シタル時辯論中新ナル犯罪事件發覺シタ
 ル時同一ノ事件ト雖モ新ニ發覺シタル点ニ付キ辯
 論ヲ必要トスル時等ハ此限ニ在ラサル可シ

二
 鑑定ヲ命シ及ヒ臨檢ヲ爲スハ檢察官其他訴訟關係
 人ノ請求アルト否トヲ問ハス總テ裁判所ノ權内ニ
 屬ス其手續ハ豫審ノ規則ニ從フ可キハ第二百八十
 三條ノ説明ニ依テ判然ナル可シ然レモ豫審ニ於テ

ハ第五百五十八條第二項ニ又檢事ノ請求アリタル時
 ハ如何ナル場合ト雖モ臨檢ス可シトアリト雖モ公
 判ニ於テハ原告人ニシテ被告人ヨリ超越シタル權
 利ヲ有ス可カラサルニ因リ此規則ヲ適用シ難シ其
 他豫審ノ規則ヲ適用スルニ付テハ少シク斟酌セサ
 ル可カラサルナル可シ違警罪ノ公判ニ付テモ亦
 同シ

○公判ニ於テ豫審ヲ必要トスル場合ノ解

一 辯論中附帶ノ犯罪發覺シタル時但第三百五十七條
 第二項ニハ豫審ヲ經サル事件ニ付テハ云々トアリ
 即チ豫審ヲ用ヒスシテ直ニ公判ニ付シタル事件ノ
 ミナラス新ニ發覺シタル附帶ノ犯罪ノ如キモ固ヨ

リ同條第二項ニ含蓄シタルモノトス第三百九十七條ニハ單ニ辯論中ニ發覺シタル條件云々トアリ附帶ノ犯罪事件ニ付キ豫審ヲ要スル場合ノ如キハ勿論ナル可シ

二

辯論中新ナル條件發覺シタル時但第三百九十七條ニハ辯論中ニ發見シタル條件ニ付キ豫審ヲ求ムルコトヲ得云々トアルニ因リ假令同一ノ犯罪事件ト雖モ新ニ發覺シタル點ニ付キ豫審ヲ求ムルコトヲ得ヘキハ判然タリ然ルニ第三百五十七條第二項ニ依ルニ豫審ヲ經サル犯罪事件ノミ新ニ發覺シタル點ニ付キ豫審ヲ爲スコトヲ得ヘキニ似タリ固ヨリ輕罪ニ付テハ新ナル條件ト雖モ成ル可ク公判判事ニテ其

取調ヲ爲ス可シ然レモ警察上ノ手數ヲ要スルコト及ヒ秘密ノ取調ヲ要スルコト等ニ付テハ既ニ豫審ヲ經タルト否トヲ問ハス其取調ヲ豫審判事ニ囑託スルコトヲ得ヘシ蓋シ既ニ豫審ヲ經タル事件ト雖モ新ニ發覺シタル點ニ付テハ仍ホ豫審ヲ經サルモノト看做スコトヲ得ヘシ

三

辯論中附帶ノ犯罪發覺シ又ハ新ナル條件發覺シタルト雖モ違警罪ノ如キハ豫審ヲ用ヒサルニ因リ公判判事自ラ其取調ヲ爲サ、ル可カラス

○

辯論中附帶ニ非サル犯罪別ニ發覺シタル場合ノ處分
一 本條ノ規則ハ同一ノ種類及ヒ輕キ種類ノ俱發罪ハ同一ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルノ原則ヨリ出タルモ

ノトス又俱發犯罪ヲ同一ノ裁判所ノ管轄ニ屬シタルハ數罪俱發一ノ重ニ依テ罰スルト數罪同時ニ落著スルトノ便法ヨリ出タルモノトス蓋シ附帶犯罪ハ裁判所ニ於テ直ニ受理シ俱發犯罪ハ必ス檢察官ヲ待テ受理ス故ニ檢察官ハ此便法却テ不便法タラサルヲニ注意セサル可カラス

二

辯論中新ニ發覺シタル俱發犯罪ハ事件ノ輕重難易ニ從ヒ頗ル注意ス可キヲアリ第一本按ノ事件ヨリ重キ刑ニ該ル可キ犯罪發覺シタルキハ檢察官必ス本條ニ從ヒ請求スルトヲ怠ラサル可シ否サレハ必ス無用ノ手數ヲ要スルト無益ナル刑ヲ言渡スヲ免カレヌ譬ハ死刑ニ該ル可キ被告人ヲシテ暫時懲

役等ニ服セシムルカ如キヲアルハ最モ不都合ナル可シ第二本按ノ事件ヨリ輕キ種類ノ犯罪發覺シタルキハ繁雜ナラサル事件ヲ除クノ外檢察官本條ニ從ヒ請求セサルヲ要ス何トナレハ刑ニ差異ナクシテ無益ノ手數ヲ盡シ同時ニ裁判スルノ實益ナカル可シ第三本案ノ事件ヨリ重キ刑ニ該ル可キト輕キ刑ニ該ル可キトニ拘ハラヌ辯論中別ニ發覺シタル事件ニ付キ本條ニ從ヒ檢察官ノ請求アリタルキハ本案ノ辯論ヲ停止シ又ハ繼續スルヲアル可シ重罪裁判所ニ於テ辯論中別ニ發覺シタル事件重罪ナルキハ通常ノ規則ニ從ヒ豫審ヲ爲シ別段公訴狀ヲ作り其他重罪ニ付キ定メタル一切ノ手續ヲ履行

三

セサル可カラス第三百九十七條第一項及ヒ本條ノ
場合ニ於テハ控訴裁判所ニテ起訴及ヒ豫審ノ手續
ヲ爲スコアル可シ若シ別ニ發覺シタル事件輕罪ナ
ルキハ檢察官其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ爲シ又ハ直
ニ公判ニ付ス可キコトヲ請求ス可シ

四

輕罪裁判所ニ於テ辯論中別ニ發覺シタル事件重罪
ナルキハ檢察官ノ請求ニ因リ第三百六十條ノ場合
ト同一ノ處分ヲ爲ス可シ若シ輕罪ナルキハ檢察官
其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ爲シ又ハ直ニ公判ニ付ス
可キコトヲ請求ス可シ若シ違警罪ナルキハ直ニ公判
ニ付ス可キコトヲ請求ス可シ

五

違警罪裁判所ニ於テ辯論中別ニ發覺シタル事件重

罪又ハ輕罪ナルキハ檢察官ノ請求ニ因リ第三百三
十七條ノ場合ト同一ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ
違警罪ナルキハ檢察官ノ請求ニ因リ本案ノ事件ト
同時ニ裁判ヲ爲ス可シ但違警罪ノ俱發ハ其刑ヲ併
科スルヲ以テ同時ニ裁判ヲ爲スモ僅ニ手數ヲ省ク
ノ便法ナルニ過キス

○ 辯論中ナル法語ノ意義

一 第三百五十七條ハ公訴私訴ノ辯論手續ノ後ニ之ヲ
掲載スルヲ以テ公訴私訴ノ辯論中何時ニテモ該條
ノ規則ヲ履行スルニ妨ナキニ似タリ第三百九十七
條ハ公訴ニ付キ事實ノ辯論終結ノ後ニ之ヲ掲載ス
ルヲ以テ單ニ事實ノ辯論中ノニ何時ニテモ該條ノ

規則ヲ履行スルニ妨ナキニ似タリ第四百二條ハ裁判言渡ノ後ニ之ヲ掲載スルヲ以テ裁判言渡ヲ終ルマテ何時ニテモ該條ノ規則ヲ履行スルニ妨ナキニ似タリ實ニ辯論中ナル法語ノ廣狹ト箇條ノ位置ト共ニ立法官ノ旨趣穩當ナラサルヲ覺フ

二 第三百五十七條第三百九十七條第四百二條ニ定メタル規則タルヤ最モ必要ニシテ且裁判言渡アルマテ何時ニテモ爲スヲ得ヘカラサルノ手續ニ非ス然レモ辯論終結ノ後其手續ヲ履行セント欲スルモハ新ニ開廷ノ手數ヲ爲サ、ル可カラズ且辯論中ナル法語ハ公訴私訴ノ辯論終結ノ言渡マテニ止ルヲ以テ適當ナルモノトス

○井田氏曰ク本案ニ附帶スル事件ハ檢察官ノ請求ヲ待タズ第二百七十六條ニ從ヒ裁判スルヲ得ルモ附帶セサル犯罪ニ付テハ檢察官ノ請求アルニ非サレハ本條ノ處分ヲ爲ス可カラズ治罪法釋要第百九十八葉

○長井氏曰ク本條ハ被告事件ニ關係ナキ犯罪事件辯論中ニ發覺シタル特別ノ場合ノ所分ヲ定ム本會次會ト云フハ重罪裁判所ノ開廷ヲ指スナリ治罪法註釋第百十九葉

○織田氏曰ク辯論中公訴狀ニ記載シタル本案ノ事件ニ附著セサル他ノ重罪輕罪ヲ見出シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アルモハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一人ヲシテ其事件ニ付キ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ數罪俱發從重ノ原則ニ從ヒ本案ノ事件ト共ニ之ヲ

裁判ス可キナリ○本條ハ重罪事件ノ辯論中ニ他罪ヲ發シタル場合ヲ云フナリ訟廷ノ辯論ヨリ生スル所ニシテ本案ニ付帶セサル犯罪ハ重罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判スル權ナシ此場合ニ於テ裁判所ハ唯々他日豫審ヲ行フニ必要ナル處分ヲ爲スニ止マル可シ但シ其處分ヲ爲スニ付テハ檢察官ノ請求アルヲ要ス治罪法註釋第六百四十五、六葉

○詳解ニ曰ク本條ハ辯論中公訴事件ニ付帶セサル他ノ重罪輕罪事件ヲ發見シタル場合ニ於テノ處分ヲ示スモノトス〔問〕本條ノ場合ニ於テ檢察官ノ請求ヲ待ツ所以ハ如何〔答〕裁判所ニ於テハ辯論ニ因リ發見シタル付帶ノ事件及ヒ公廷内ノ犯罪ノ外公訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラヌトハ第二百七十六條ニ定ムル所ノ原則

ナリ故ニ檢察官請求ヲナシ之カ公訴ノ提起シタルニ非サレハ其事件ヲ管掌スル能ハサルヲ以テノ故ナリ〔問〕然ラハ則チ之ヲ豫審判事ニ送致セズシテ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事ヲシテ豫審ヲナサシムル所以如何〔答〕豫審ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事ニ命スルモノニシテ〔第五十六條〕常ニ始審即チ輕罪裁判所ノ外ニ在ラサルモノナリ然ルニ重罪裁判所ハ地方ノ便宜ニ依リ或ハ始審裁判所々在ノ地ニ開クモノアリ或ハ控訴裁判所々在ノ地ニ開ク場合ニ於テハ第五十四條ニ定ノタル通常ノ手續ニ從ヒ必ズ豫審判事ヲシテ其事ニ關涉セシムルモ敢テ妨ケナシト雖モ夫ノ控訴裁判所所在ノ地ニ重罪

裁判所ヲ開ク場合ニ於テ此ノ規則ヲ遵守スルコトヲ要スルニ至ルモハ之レカ爲メ被告人ヲ送付シ隨テ關係人証人ヲ其地ニ到ラシムル等實ニ裁判ヲ遷延シ費用ヲ増加シ所謂ル勞シテ功ナク弊アリテ益ナキノ結果ヲ致スニ過キサルヲ以テ本條ノ輕便方ヲ設ケタルモノナリ〔問〕次會ニ於テ云々トアルニ依レハ本案ノ事件モ亦之ヲ次會ニ延スモノナリ耶〔答〕然リ刑法第百條以下數罪俱發ノ例ニ從フヘキカ爲メ之カ裁判ヲ同時ニナサハルヲ得サレハナリ〔問〕辯論中付帶ノ事件ヲ發見シタルモハ如何處分スヘキ耶〔答〕第二百七十六條ノ第二項ニ從ヒ處分サレヘキモトス 治罪法詳解第十八號第四十八、九條

○森氏曰ク辯論中本案ニ付帶セサル他ノ犯罪アルコトヲ發

見スレハ檢察官ノ請求ニヨリ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ數罪俱發ノ例ニ依テ本案ト共ニ裁判スルナリ 治罪法詳解大成第百四十一條

編者曰ク右諸氏ノ說皆穩當ナリ

第四百三條

檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕本條ハ重罪裁判所ノ言渡ニ對シ上告スルヲ得ル旨ヲ定ム重罪裁判所ノ裁判ハ總テ終審裁判ナリ故ニ其言渡ニ對シ不服アレハ直チニ上告スルコトヲ得尤對審裁判言渡ノ場合ニ限ルナリ

一 重罪裁判所ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲スノ解

○村田氏曰ク重罪裁判所ノ裁判ハ終審ナルヲ以テ控訴ヲ許サ、ルハ勿論ナリ又欠席裁判ニ係ル時ハ故障ヲ爲シ之ヲ救フノ途アルヲ以テ其上告ヲ爲スヲ得ルハ對審裁判ニ限ル其上告ヲ爲スヲ得可キ場合及ヒ期限等ハ第四百十條以下ニ就テ見可シ治罪法註釋第七卷第四十葉

○薩埵氏曰ク此條ハ對審裁判言渡ニ對シ上告スルヲ得ルヲ規定シタルモノニシテ第四百六條ト相對スルモノナリ○重罪裁判所ハ事實裁判所中第一等ニ位スル法衙ナリ故ニ其裁判言渡ハ終審ノモノトナリ復々他ニ控訴スルヲ得ス然レモ第四百十條ニ掲ケタル理由アル時ハ大審院ニ上告スルヲ得ル故ニ裁判長ハ第三百十六條ノ規則ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ上告ヲ爲スヲ

得可キヲ及ヒ其期限ヲ告知セサル可カラス然ラサレハ上告期限ノ經過ヲ停止スル如キ結果ヲ生スルナリ隨筆第二十五號第五十三、四葉

○井田氏曰ク上告ニ付テハ第四百十條以下ヲ見ル可シ治罪法註釋第九十八葉

○長井氏曰ク重罪裁判所ノ對審判決ハ事實ニ付テハ終審ナリ故ニ唯法律ノ点ニ付テ上告ヲ許ス治罪法註釋第三百十九葉

○織田氏曰ク檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ限リ上告ヲ爲スヲ得ルナリ○本條ハ重罪裁判所ノ言渡ニ對シ上告スル場合ヲ云フナリ此裁判所ノ裁判ハ終審ナルヲ以テ控訴ヲ許サズ唯々上告スルヲ得ルノミ其上告ノ期限ハ三日ナリトス而シテ其期限ヲ

起算スルハ裁判言渡アリタル日ヨリスルモノトス治罪法註
釋第六百四
十六、七葉

○詳解ニ曰ク本條ハ先キニ違警罪公判及ヒ輕罪公判ノ各
章ニ付キ説明シタルト同一ノ理由ナレハ敢テ複言ノ煩
ヲ爲サス治罪法詳解第十
八號第五十葉

○森氏曰ク重罪裁判所ノ裁判ハ終審裁判ナルヲ以テ控訴
スルコトヲ得ス唯其對審裁判ニ對シテハ第一百十條以下ノ
規則ニ從ヒ上告ヲ爲スコトヲ得欠席裁判ハ故障ヲ爲スノ
道アルヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ得ス治罪法註解大成第
二百四十一、二葉
編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

第四百四條

關席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必

要ナリトスル豫審書類ヲ朗讀セシメ又原被證人ノ陳
述ヲ聽ク可シ

檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人
ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

民事擔當人ハ答辯スルコトヲ得

(註)本條ハ關席裁判ニ關スル規則ヲ定ム重罪ハ輕罪ヨリ
事重大ナルヲ以テ關席裁判ヲ爲スニモ裁判長書記ヲ
シテ公訴及ヒ必要ナル豫審書類ヲ朗讀セシメ又原被
證人ノ陳述ヲ聽キ而テ裁判ヲ爲サシムルナリ尤モ重
罪被告人ハ公判ノ日時ニ關席スルモ第二百九十九條
ノ規則ヲ履行セシ後ニ非サレハ關席裁判ヲ爲スコトヲ
得サルナリ

第二項被告人闕席セシキハ辯護人ヲ用フルヲ許サ
 ス故ニ檢察官法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述シ民事原告
 人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述スルナリ
 第三項被告人闕席スルモ民事擔當人出席セシキハ答
 辯ヲ爲スヲ得然レモ民事擔當人ハ私訴關係人ナレ
 ハ公訴ニ付辯論ヲ爲スヲ得ス唯タ公訴私訴ニ普通
 ノ原因タル事實及ヒ民事原告人ノ要償ニ付辯論ヲ爲
 スヲ得ルノミ
 又本條明文ナシト雖モ民事原告人又ハ民事擔當人闕
 席セシキハ第三百卅一條ニ從ヒ闕席裁判ヲ爲ス可シ
 一 重罪欠席裁判ノ解

○村田氏曰ク欠席裁判ハ第二百六十九條ノ手續ヲ盡シタ

ル後仍ホ被告人ヲ逮捕スルヲ能ハサル場合ニ於テ之ヲ
 行フ其裁判ヲ爲スニ付テハ本人出廷セサルヲ以テ辯護
 人ヲ用フルヲナク書類及ヒ証人ノ陳述ノミニ因リ之ヲ
 爲ス可キ者トス○民事擔當人ハ被告人ノ欠席シタルニ
 拘ハラヌ要償ノ点ニ付テハ其責ヲ免ル可キ者ニ非ス故
 ニ民事ニ付キ辯論スルヲ得ルハ當然ノコトナリ
治罪法註
 釋第七卷

第四十、
 一葉

○薩埵氏曰ク此條以下ハ欠席裁判ニ關スル規則ヲ定ムル
 モノナリ○第三百七十八條ニ據レハ重罪ニ就テハ必ス
 辯護人ヲ要スルコトシ第三百八十一條ニハ辯護人ナク
 シテ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其効ナキモノトシタリ然
 レモ公判通則ノ章ニ掲ケタル第二百七十條ノ原則ニ據

レハ欠席シタル被告人ニ付テハ辯護人ヲ用フルヲ許
 サストアルヲ以テ重罪ノ場合ニ於テモ亦欠席ノ被告人
 ニハ辯護人ヲ許サ、ルナリ是此條ニ於テ辯護人ノ事ヲ
 掲ケサル所以ナリ○又被告人及ヒ辯護人ノ之ナキニ於
 テハ別ニ公訴ニ付辯論ノ必要ナルヲナシ故ニ先ツ書記
 公訴狀ヲ朗讀シ又裁判長必要ナリト認ムルキハ豫審書
 類ヲ朗讀セシメ其他原被証人ノ陳述ヲ聽キタル後檢察
 官ハ其公訴席ニ現出セシ事實ニ基キ法律適用ニ付意見
 ヲ述ヘ次ニ私訴ノ辯論ヲ爲ス可キモノトス隨聽隨筆第二十
 五號第五十
 五、六、
 七葉

○横田氏曰ク闕席裁判治罪法講義第三卷
 第二百十八、九葉

一 違警罪及ヒ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ闕席裁判ハ

呼出ヲ受ケタル日時ニ被告人出廷セズ又ハ代人ヲ
 差出サ、ルキハ直ニ之ヲ爲スヲ得第三百三十一
 條ニ檢察官及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キト
 アルハ檢察官ノ求刑及ヒ民事原告人ノ要償ニ付テ
 ノ陳述ヲ謂フ闕席裁判ヲ爲ス可キヤ否ノ意見ヲ聽
 クニ非ス然レモ檢察官及ヒ民事原告人ハ公判ヲ停
 止ス可キヲ求ムルヲ得ヘシ若シ公訴ニ付キ公
 判ヲ停止シタルキハ私訴ニ付テモ亦公判ヲ停止セ
 サル可カラス此場合ニ於テハ民事裁判所ニ私訴ヲ
 爲スヲ得ヘシ重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪
 ニ付テモ亦同シ

二 禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪及ヒ重罪ノ闕席裁判ハ第

二百六十九條ノ手續ヲ履行シタル後ニセサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

三 闕席裁判ノ手續ハ公訴ト私訴トヲ問ハス通常ノ規則ト格別ナル差異アルコトナカルヘシ故ニ第四百四條ノ規則ハ輕罪以下ノ闕席裁判ニ付テモ亦少シク之ヲ斟酌シテ適用ス可シ同條第一項ニ豫審書類ヲ讀セシメトアルハ被告人出廷セサルニ因リ被告事件ヲ詳悉ス可キ爲メナリ但被告人ノ呼出シタル證人ノ陳述ハ之ヲ聽ク可シト雖モ辯護人ヲ用フルコトヲ許サス

○井田氏曰ク闕席裁判ハ第二百六十九條第二百七十條ニ定メタル條件アルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラサルヤ言

ヲ待タス○民事擔當人ハ檢察官ノ陳述ニ付キ辯論スルコトヲ得ス若シ之ヲ許ス時ハ必ス被告人ノ無罪等ヲ辯シ以テ僥倖ニ法網ヲ免カレシメンコトヲ企望シ遂ニ第二百七十條ノ規則ヲシテ徒法ニ屬セシムルニ至ラン治罪法條要第百九十八條

○織田氏曰ク欠席裁判ハ被告人ヲ逮捕スルコト能ハサル場合ニ於テ之ヲ行フモノナレハ其裁判ヲ爲スニ付テハ書記ヲシテ公訴狀並ニ必要ナリトスル豫審書類ヲ讀ムケシメ又原被証人ノ陳述ヲ聞キ本人ノ出廷セサルマヽニテ之ヲ爲ス可キモノトス○檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ見込ヲ陳シ民事原告人ハ賠償ヲ要求スルニ付キ見込ヲ陳シ而シテ民事擔當人ハ被告ノ欠席シタルニ拘ハ

ラス要償ノ点ニ付テハ答辯スルコトヲ得ルナリ。〇本條ニ所謂ル欠席裁判ヲ爲スハ被告人ノ不在ニ付キ正當ナル事由ノ證明ナキニ因リ公訴狀並ニ豫審書類ヲ朗讀シ以テ之ヲ爲スナリ。〇被告人不在ナルモ全ク民事擔當人ニ至大ナル損害ヲ及ホサス乃チ民事擔當人ハ其責任ノ大小輕重ヲ爭議スルヲ得可シ然レモ被告事件ニ付テハ之ヲ争フコトヲ得ス何故トナレハ其之ヲ争フハ辯護人ノ職務ニシテ而シテ本人不在ナレハ辯護人ヲ用フルナケレハナリ是レ被告人欠席ノ爲メ民事擔當人害ヲ受クルコト或ハ太オシト雖モ其位置ノ然ラシムル所ニシテ己ムヲ得サルモノナリ。治罪法註釋第六百四十七、八、九葉

○詳解ニ曰ク本條ハ欠席裁判ヲ爲スニ付テノ手續キヲ示

スモノニシテ亦甚ク討尋スヘキ点アルコトナシ〔第二百六十九條第二百七十條第二百七十一條參看〕治罪法詳解第十號第五十葉

○森氏曰ク欠席裁判ハ第二百六十九條ノ規則ニ從テ之ヲ爲ス可シ其手續ハ本條ノ如ク公訴狀及ヒ必要ナル豫審書類ヲ朗讀シ原被証人ノ陳述ヲ聽テ裁判ス可シ。治罪法註解大成第十二葉

編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

第四百五條

闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

〔註〕本條ハ闕席裁判言渡書ヲ送達スル規則ヲ定ムル者ニシテ其旨趣第三百三十二條第一項ト同一ナリ故ニ復

タ之レカ説明ヲ下タサス

一 欠席裁判言渡書送達ノ解

○薩埵氏曰ク此條ノ規則ハ第三百三十二條第一項ト同一

ニシテ余カ向キニ同條ヲ註釋スルニ方リテ詳説セシ所

ナレハ今亦此ニ之ヲ贅セス隨聽隨筆第二十六號第一葉

○織田氏曰ク欠席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ

求メニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可キナリ○本條ニ

所謂ル欠席裁判言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルハ

其裁判アリタルコトヲ知ラシメンカ爲メナリ、サント其言

渡書ノ送達ハ權利者ノ請求ニ因リ之ヲ爲ス可キ者トス

治罪法註釋第六百四十九號

○詳解ニ曰ク本條亦タ一讀シテ其意ヲ知悉スヘシ第三百

三十二條參看治罪法註釋第十卷第五十一號

編者曰ク右諸氏ノ説皆允當ナリ

第四百六條

關席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非サレ

ハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴裁判言渡ニ對シ上

告ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ハ關席裁判ニ對シテ上告ヲ爲ス可キ者ヲ定ム被

告人關席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受クルモ故障ヲ爲ス

コトヲ得ル者ニシテ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得ス然レ檢

察官ハ公益保護ノ爲メ其刑ノ言渡不當ナリトスルモ

ハ上告ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二項私訴ノ裁判ニ付テモ被告入闕席シタルキハ故障ヲ經ス直チニ上告スルコトヲ許サスト雖モ民事原告人及ヒ民事擔當人ニ付テハ對審裁判ナルヲ以テ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得ル者ナリ民事原告人闕席セシキ被告入出席セシキハ被告入直チニ上告スルコトヲ得ルハ論ヲ俟タサルナリ

一 欠席裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スノ解

○村田氏曰シ被告入出席セサルヲ以テ欠席ノ儘裁判言渡アリタルコトハ之ヲ被告入ニ知ラシムルノ途ヲ盡サレ可カラズ但其言渡書ノ送達ハ權利者ノ請求ニ因リ之ヲ爲ス可キ者トス○欠席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲スコトヲ得サルハ當然ノコトナリ何トナレハ其

欠席裁判ニ對シテハ出席ノ上故障ヲ爲スノ權アルヲ以テナリ但檢察官ハ公道正義ノ爲メ上告ヲ爲スコトヲ得○民事原告人民事擔當人ハ出席シタルヲ以テ其裁判言渡ニ對シ故障ヲ爲ス可キノ理ナシ故ニ通常ノ規則ニ從ヒ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得治罪法註釋第七卷第四十一、二葉

○薩埵氏曰ク此條以下ハ重罪ノ欠席裁判言渡ニ對スル上訴ノ事ヲ規定スルモノナリ○重罪ノ欠席裁判言渡ヲ受ケタル被告人ハ先ツ故障ヲ爲シタル上ニ非サレハ上告ヲ爲スヲ得ス故ニ其刑ノ言渡ニ對スル上告ハ獨リ檢察官ノ爲スヲ得可キモノニシテ他ノ者ノ爲スヲ得サルモノトセリ蓋シ被告人ハ欠席ニテ其事實ノ辯論ヲ盡サレルヲ以テ先ツ故障ヲ爲シ其事實ヲ明ニセシ上ニ非サレ

ハ法律裁判所ナル大審院ニ上告スルヲ得スト雖モ檢察官ハ既ニ其場ニ立會ヒ其所見ヲ陳述シタルモノナレハ同官ニ對シテハ對質裁判ト同一ノ効アリ故ニ檢察官ノミ上告ヲ爲スコトヲ得可キナリ○今此ニ刑ノ言渡トアレハ獨リ刑ノ言渡ノミナラス無罪免訴及ヒ管轄違ノ言渡ニ對シテモ亦檢察官ハ上告ヲ爲シ得可キコト論ヲ俟タサルナリ○民事原告人及ヒ民事擔當人ハ毫モ公訴ニ付喙ヲ容ル、能ハサル者ナレハ唯私訴ノ上告ノミ之ヲ爲スコトヲ得可キモノトセリ隨聽隨筆第二十卷第六號第三、四條

○横田氏曰ク終審ノ裁判言渡ニ對スル上告治罪法講義第三卷第二百四十九、五十條

一 一ニノ例外ヲ除クノ外違警罪及ヒ輕罪ノ公判ハ始

審ナルヲ以テ控訴裁判ヲ經サレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス重罪ノ公判ハ終審ナルヲ以テ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

二 上告ハ對審裁判ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ欠席裁判ヲ受ケタル者ハ事實ヲ盡スコトヲ得ス事實ヲ盡サスシテ法律ノ裁判ヲ求メントスルハ裁判ノ旨趣ニ反スルモノトス但欠席裁判トハ欠席シタル者ノミニ對スル名義ニシテ出廷シタル者ニ付テハ如何ナル場合ト雖モ對審裁判ナリトス故ニ公判ノ裁判ニ付キ被告人欠席シタリト雖モ檢察官ハ上告ヲ爲スコトヲ得又私訴ノ裁判ニ付キ欠席シタル者アリト雖モ出廷シタル訴訟關係人ハ總テ上告ヲ爲ス

トヲ得ヘシ第四百六條第一項ニハ刑ノ言渡ニ限リ
第二項ニハ民事原告人民事擔當人ニ限リタルハ法
文ノ完全ナラサルヲ覺フ

○井田氏曰ク第三百十條ニ據ルニ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ
受ケタル者ハ現ニ捕ニ就クニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ
得ス乃チ本條檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スコトヲ得スト
云フハ此趣意ニ原ツクナリ 治罪法註釋要第百
九十九二百葉

○織田氏曰ク欠席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ出
廷ノ上故障ヲ爲スノ權アルヲ以テ其言渡ニ對シテハ檢
察官ニ非サレハ上告ヲ爲スコトヲ得サルナリ○民事原告
人民事擔當人ハ出廷シタルヲ以テ其裁判言渡ニ對シ故
障ヲ爲ス可キノ理ナキニ因リ通常ノ規則ニ從ヒ上告ヲ

爲スコトヲ得ルナリ○本條ニ所謂ル欠席裁判ニ係ル刑ノ
言渡ヲ受ケタル者上告スルヲ得サルハ當然ノ事ニシテ
決シテ新ニ嚴酷ノ制ヲ設ケタルニ非ス實ニ上告ニ關ス
ルニ二箇ノ規則ヨリ生スル所ノ果效タリ其規則ノ一ハ
即チ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ捕ニ就クニ非サレハ上告
スルヲ得ス其二ハ即チ上告ハ終審ノ裁判ニ對スルニ非
サレハ之ヲ許サスト云フ是レナリ今欠席裁判ニ係ル刑
ノ言渡ハ其言渡ヲ受ケタル者出廷スルキハ當然其效ヲ
失ハシム然ラハ則チ終審ノ裁判アリト謂フ可カラサル
ナリ之ニ反シテ檢察官並ニ民事上關係アル者ハ裁判ヲ
攻撃スルニ付キ他ノ方法ヲ有セサルヲ以テ通常ノ規則
ニ從ヒ上告スルヲ得ヘシ 治罪法註釋第六
百五十一葉

○詳解ニ曰ク本條ハ欠席裁判言渡ニ對シ上告ヲナスヲ得
 ヘキノ人若クハ其人ニ付テ上告ノ理由ニ區別アルヲ示
 スモノナリ〔問〕欠席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告
 人ハ本條ノ主旨ニ據レハ上告ヲナシ得サルカ如シ果シ
 テ然ラハ豈ニ苛酷ニ非ス耶〔答〕否決シテ苛酷ト謂フ可カ
 ラサルナリ何トナレハ欠席シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル被
 告人ハ次條ノ規則ニ據リ刑ノ期滿免除ニ至ル迄何時ニ
 テモ故障ヲ爲スヲ得可キモノナレハ上告ノ外ニ原裁
 判ヲ駁撃スルノ方法アルヲ以テナリ殊ニ上告ハ對審ノ
 終審ノ裁判ニ對スル者ニ非サレハ之ヲ許サレハ屢々
 見來ルカ如シ而シテ欠席裁判ハ言渡ハ其言渡ヲ受ケタ
 ル者出廷シテ故障ヲナスキハ當然其効ヲ失ハシメ更ニ

之カ裁判ヲナスヘクシテ現ニ捕ニ就キタルキハ即チ故
 障ヲナスヲ得ヘクシテ其故障ヲ爲シタル上ニテ言渡シ
 タル終審裁判ニ對スルニ於テハ當然上告ヲナスヲ得
 ヘキモノナリ〔問〕然ラハ則チ檢察官ハ何故之カ上告ヲナ
 シ得ル耶〔答〕輕罪事件ノ如キ檢察官ハ欠席裁判ニ對スル
 モ之カ控訴ヲナシテ以テ其裁判ヲ攻撃スルヲ得可キモ
 重罪ニ付テハ他亦タ攻撃ノ道ナク且ツ被告人欠席スル
 モ出廷シタル一方ノモノニ付テハ猶ホ對質ノ裁判ト謂
 フヘキヲ以テ之カ上告ヲナスヲ得セシムルモノニテ民
 事原告人民事擔當人カ私訴ニ付キ上告ヲナシ得ルモ亦
 タ此理ニ外ナラサルナリ 治罪法註解第十八
 號第五十一、二葉
 ○森氏曰ク欠席裁判ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ上

管スルヲ得ス唯檢察官ノミ上告ヲ爲スヲ得○民事原告人民事擔當人ハ固ヨリ刑ノ言渡ニ對シテ上告ヲ爲スヲ得ス唯要償ノ言渡ニ對シテ上告ヲ爲スヲ得ルノミ治罪法註解大成 第二百四十三條

編者曰ク織田氏云ク闕席裁判ニ係ル刑ノ言渡ハ其言渡ヲ受ケタル者出廷スルキハ當然其效ヲ失ハシム云々是レ大ナル誤解ナリ此治罪法ニ於テハ決シテ斯ル規則ハアテサルナリ治罪第四百八條二項ニ曰ク重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ其三項ニ曰ク其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シトアリ然ハ重罪ノ闕席ヲ受ケタル者ハ仮令本人出廷スルモ其裁判直チニ其

效ヲ失フ者ニ非ラス先ツ本人ヨリ故障ヲ爲シ之ヲ受理セラレタルキ初テ更ニ其裁判ヲ爲スナリ尤モ治罪法草案ニハ氏ノ說ノ如キ規則モ之レアリタリト云此治罪法ニ於テハ決シテ斯クノ如キ規則之レアラサルナリ又詳解ノ說ニ云ク闕席裁判ノ言渡ハ其言渡ヲ受ケタル者出廷シテ故障ヲナスレハ當然其效ヲ失ハシメ云々是亦右ノ說ト聊カ異ナリト雖モ其誤謬ハ同一ナリトス

第四百七條

闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヲ得但捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ヲ定ム重罪ノ刑

ハ盡ク身体ニ施スノ刑ナリ故ニ闕席裁判ニ因リ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヲ許スナリ此レ第三百五十六條ト同一ノ規則ナリ然レ彼條ト異ナル所ハ彼條ニ於テハ第一ヨリ第三マテノ取除アリト雖レ本條ニハ之レアルヲナシ只本條ニハ捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シトノ取除アルノミ此レ輕罪ト重罪ト輕重アルヲ以テ此ノ差異アルナリ

私訴ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ハ本條ニ明文ナシト雖レ私訴ハ重罪輕罪何レニ附帶スルモ輕重ノ別アルモノニ非ラス故ニ第三百三十二條第二項及ヒ第三百五十五條ニ準據シ其期限ヲ三日ト爲ス可シ

一 欠席裁判言渡ニ對スル故障ノ解

○村田氏曰ク欠席裁判ハ被告人ノ陳述ヲ聽カス又辯護人ヲ用ヒスシテ之ヲ爲シタルヲ以テ容易ニ確定セシム可カラズ故ニ刑ノ期滿免除ニ至ルマテハ欠席シタル者ヨリ故障ヲ爲スノ權アリトス然レモ被告人捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲サレハ其權ヲ失フ者トス治罪法註釋第七卷第四十二條

○薩摩氏曰ク重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者刑法第五十九條第一ヨリ第五ニ至ル迄ノ期限間捕ニ就カサル時ハ刑ノ期滿免除トナリテ其刑ハ則チ消滅スルト雖モ若シ其期限内ニ捕ニ就キタル時ハ仍ホ其刑ノ執行ヲ受ケサル可カラズ此故ニ被告人ハ期滿免除ニ至ル迄ハ何時ニテ

モ故障ヲ爲スコトヲ得可シ然レモ第三百十條ノ原則ニ據
 レハ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケテ逃亡シタル者ハ現ニ
 捕ニ就クニ非サレハ上訴スルコトヲ得サルモノトス故ニ
 今此條ニ於テモ其故障ヲ爲サントスルニハ必ス一旦捕
 ニ就カサル可カラズ既ニ捕ニ就キタル以上ハ必ス十日
 内ニ之ヲ爲サレ可カラサルナリ○第三百五十六條ヲ
 案スルニ欠席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被
 告人ハ通常期滿免除ニ至ル迄故障ヲ爲スコトヲ得レモ同
 條ニ掲ケタル三個ノ場合即チ其刑ノ言渡ヲ知リシ時又
 ハ其言渡アルコトヲ豫知シタリト思量ス可キ時ハ其時ヨ
 リ三日内ニ故障ヲ爲ス可キモノトセリ然ルニ此條ニ於
 テハ殊ニ其期限ヲ増シ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ得可キモ

ノトシ且ツ捕ニ就キタル以外ノ事ニ因リ其刑ノ言渡ア
 リシコトヲ知リシモノト思量シ得可キ時ト雖モ更ニ之カ
 制限ヲ設ケサルヲ以テ期滿免除ニ至ル迄之カ故障ヲ爲
 スコトヲ得可シ是皆重罪ノ刑重キノ故ヲ以テ特別ニ被告
 人ニ辯護ノ時間ヲ與ヘタルモノナリ○又第三百六十六
 條第二項ニ據レハ欠席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免
 除ニ至ル迄何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ
 爲スコトヲ得可キモノトセリ故ニ輕罪ニ付テハ欠席者ハ
 故障ヲ爲スモ控訴ヲ爲スモ自由ナリト雖モ重罪ハ元ト
 終審ノ裁判ナレハ欠席者ノ直接ニ爲ス可キ上訴法ハ唯
 故障ノ一アルノミトス隨聽筆第二十六
 號第五、六、七、八條

○井田氏曰ク輕罪ニ付テハ第三百五十六條ニ定メタル場

合ニ於テハ三日内ニ故障ヲ爲ス可キ者トス重罪ニ付テ
 ハ捕ニ就キタル場合ニ限リ十日内ニ故障ヲ爲サシム此
 ノ如ク相異ナル者ハ罪ノ輕重大ニ差ヘハナリ 治罪法釋要
 第二百三十一條
 ○長井氏曰ク闕席裁判ヲ受ケタル者縛ニ就ク時ハ此時ヨ
 リ十日間刑ノ執行ヲ停止シ故障ノ申立ヲ爲サシム 治罪法
 註釋第三百二十
 一條

○織田氏曰ク欠席裁判ハ被告人ノ陳述ヲ聞カス又辯護人
 ヲ用ヒスシテ之ヲ爲シタルヲ以テ容易ニ確定シタルモ
 ノトセス是ヲ以テ其言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除
 ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヲ得ルナリ、サント
 被告人召捕ヲシタルキハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シ○本
 條ハ法文明瞭ニシテ解説ヲ要セサレハ此ニ贅セス 治罪
 註釋

第六百一十五條

○詳解ニ曰ク〔同〕欠席裁判ニ對シ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ
 何時ニテモ故障ヲナスヲ得ヘキ規則ニ對スル例外ノ場
 合ハ輕罪ニ付キ第三百五十六條ニ於テ三箇ヲ指定シア
 ルナリ然ルニ重罪ニ關スルキハ第三百五十六條ニ記載
 シタル三箇ノ場合中其一タル捕ニ就キタル時ノミヲ揭
 ケタルヲ見レハ其他裁判ス可キ事件ヲ申立テ又々裁判
 言渡書ヲ送達シタル時ニ於テ言渡書ノ送達ヲ受ケ及ヒ
 言渡アリタルヲ知ルモ猶ホ期滿免除ニ至ルマテ故障
 ヲナスヲ得ヘキカ如シ果シテ然ラハ斯ク規定サレタル
 所以ハ如何〔答〕抑モ輕罪ノ刑ハ其重キモ禁錮以上ニ至ラ
 サルモノナリ〔刑法第八條〕之ニ反シテ重罪ノ刑ハ其重キ

モノハ死其輕キモノモ尙ホ禁獄以上ニシテ〔刑法第七條〕殊ニ常ニ終身公權剝奪ノ付加刑アルナリ〔刑法第三十二條〕是ニ由テ之ヲ觀レハ被告事件ノ輕罪ニ關スルキト重罪ニ關スルキト被告人ノ心裡ニ畏懼ノ念ヲ生スルノ深淺彼是同日ノ論ニアラス實ニ非常ノ差異アル可シ是ヲ以テ輕罪ニ關スルキハ被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立若クハ裁判言渡書ヲ受取リタル場合ニ於テ適法ノ時間ニ故障ヲ爲サ、レハ被告人ニ於テ其裁判言渡ヲ認定シタルモノト法律上ヨリ推測シテ第三百五十六條ヲ認メタルモノナリ之ニ反シテ重罪ニ關スルキハ被告人ニ畏懼ノ念ヲ生スルコト一層過大ニシテ苟モ刑ヲ免レシコトヲ計ルノ情ナシト云フ可カラサルヲ以テ

僅々右等ノ景況アルモ以テ其裁判言渡ヲ認定シタルモノト推測ヲ爲スニ未タ充分セサルナリ是レ重罪ニ關スルキハ何時ニテモ故障ヲ爲スコトヲ得可キ原則ヲ一層擴張シ單ニ捕ニ就キタル場合ノミニ其例外ヲ制限シタル所以ナリ〔問〕捕ニ就キタル時ノ故障期限ヲ十日内ト定メタル所以何如〔答〕故障ヲナスニ付テハ十分ノ思考ヲ要スルヲ以テナリ 治罪法註解第十八號第五十三、四、五葉

○森氏曰ク重罪ノ欠席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ヲ得ルニ至ルマテハ何時ニテモ故障ヲ爲スコトヲ得但シ被告人捕ニ就キタル時ハ其日ヨリ十日内ニ故障ヲ爲サザレハ其裁判確定スヘシ 治罪法註解大成第二百四十三葉

編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

第四百八條

故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ故障ノ申立ヲ爲ス場所及ヒ其裁判ニ關スル規

則ヲ定ム第一項ハ故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル

重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可キ者ニテ第三百三十二條第

二項及ヒ第三百五十五條ト同趣意ナリ

第二項ハ故障受理ノ判決ヲ爲ス可キ旨ヲ定メタル者

ニシテ第三百三十三條及ヒ第三百五十五條ト同趣意ナリ

第三項重罪裁判所ハ常置裁判所ニ非ラス故ニ故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ更ニ裁判ヲ爲ス其方法ハ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ處分スルナリ

一 故障申立及ヒ其判決等ノ解

○薩埵氏曰ク此條第一項ニハ故障ノ申立ハ之ヲ如何ナル裁判所ニ爲ス可キヤヲ定メ第二項ニハ其申立アルヤ先ツ故障ノ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可キヲ命シ第三項ニハ其受理ス可キモノト決定シタル後ノ手續ヲ規定シタリ○若シ重罪裁判所ノ開廳中ナレハ故障ノ申立ハ其

欠席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲サ、ル可カラ
 ス若シ其欠席裁判ヲ爲シタル裁判所ノ既ニ閉廳シタル
 後ナレハ縱令ヒ次期ノ重罪裁判所開廳中ト雖モ次條ノ
 規則ニ從フ可キモノトス○故障ノ申立アリシ時ハ重罪
 裁判所ニ於テ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ取調ヘ若
 シ其故障期限ヲ經過シタル等ノ理由アルキハ宜シク之
 ヲ棄却ス可シ然ラサレハ其申立ヲ受理シテ次項ノ規則
 ニ從ヒ更ニ之ヲ裁判ス可シ○第三項ノ規定スル所ニ據
 レハ其申立ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規
 則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可キモノトセリ其所謂ル通常
 ノ規則トハ則チ重罪公判ニ關スル通常ノ規則ナリ而シ
 テ其裁判ハ裁判長ノ見込ニ從ヒ仍ホ其本期内ニ於テ之

ヲ判決スルヲ得可シト認ムレハ宜シク本期内ニ之ヲ爲
 ス可シ然ラサレハ次期ニ於テ之ヲ爲スモ可ナリ○或曰
 違警罪及ヒ輕罪ノ公判規則中ニハ故障ノ申立ヲ受理シ
 テ更ニ裁判ヲ爲スニ方リ被告人再ヒ欠席スル時ハ再ヒ
 故障ヲ爲スヲ得サル明文アリ(第三百三十四條第二項
 及ヒ第三百五十五條)然ルニ重罪ニ付テハ之カ明文ナシ
 是レシテ幾回トナシ故障ヲ許スノ意乎然レモ斯クノ如
 シ幾回モ故障ヲ許スモノトセハ裁判ハ幾ト底止スル所
 ナシ實際上不都合ナルノミナラズ理ニ於テモ決シテ聽
 ス可キモノニ非サルナリ然ルニ唯此ニ困難ナルハ凡ソ
 人ノ權利ヲ制限スル規則ハ明文アルニ非サレハ決シテ
 擴充スルヲ得サルノ原則是ナリ今夫レ被告人ノ再ヒ故

障ヲ爲スコトヲ禁スルハ所謂ル權利ヲ制限スルモノナリ
 然ラハ則チ必ス明文アリテ後ニ非サレハ之ヲ禁スルヲ
 得ス仍テ案スルニ是恐ラシハ法ノ欠典ナラント余曰違
 警罪ハ勿論輕罪ノ罰金ニ該ル者ニ就テハ其被告人ヲ拘
 留スルコトヲ得ス因テ故障ノ裁判ニ付再ヒ欠席スルコト
 シトセス然レモ重罪被告人ハ捕ニ就テ後故障ヲ申立ル
 者ナレハ又欠席セントスルモ決シテ得ヘカラス若シ再
 ヒ逃走シ因テ欠席トナリタル時ハ第三百十條ノ規則ニ
 違フヲ以テ其上訴ハ無効トナルヘシ然ラハ則チ本條ハ
 欠典ニ似テ其實欠典ニ非サルナリ但シ私訴ノ裁判ニ付
 キ之カ制限爲サレリシハ本條ノ欠典ト謂ハサルヲ得サ
 ルナリ 隨聽隨筆第二十六
 號第十一、二、三、四葉

○長井氏曰シ本條ハ前條ノ故障ヲ申立ル裁判所ヲ定メ其
 申立ヲ爲シタル後ノ手續ヲ示ス 治罪法註釋第
 三百二十一葉
 ○織田氏曰シ欠席裁判ヲ受ケタル者捕ニ就キ又ハ自カラ
 復歸シテ故障ヲ申立ルルハ欠席裁判ヲ爲シタル重罪裁
 判所ニ之ヲ爲シ重罪裁判所ニ於テハ先ツ其申立タル故
 障ヲ受ク可キヤ否ヲ判決スヘキナリ○裁判所ニ於テ其
 故障ヲ受ク可キモノト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ
 於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ○本條並ニ
 次條ハ故障ヲ爲スノ手續ヲ定メタルナリ而シテ本條ハ
 重罪裁判所閉廳前ニ於テ故障ヲ爲スノ場合ヲ豫見シタ
 リ故ニ欠席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可キ
 者トス若シ此故障ヲ受理シタルルハ更ニ通常ノ規則ニ

從ヒ對審裁判ヲ爲ス可シ治罪法註釋第六百五十二、三條

○詳解ニ曰ク本條ハ故障ヲナスヘキ所ト故障アリタル場合ニ於テノ手續ヲ定メタルモノニテ第三百三十三條ト同一ノ主旨ナリトス治罪法詳解第十卷第八號第五十五條

○森氏曰ク故障ハ欠席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲スヘシ其裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ取上クヘキヤ否ヲ判決シ取上クヘシト爲シタル時ハ其時ノ集會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從テ更ニ裁判ス可シ治罪法註解大成卷二百四十四條

編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

第四百九條

關席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管

轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ
控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可キノ言渡ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ重罪裁判所閉廳後故障ヲ爲ス場合ヲ定ム重罪裁判所ハ第七十一條ニ定ムル如ク三月毎ニ之ヲ開キ其一期間ノ處分ヲ終ンハ之ヲ閉ス者ナリ故ニ閉廳ノ時關席裁判ヲ爲シ閉廳シタル後ハ該裁判所ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス因テ其閉廳セシ地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ其中立ヲ爲サシムルナリ
第二項控訴裁判所ニ於テ故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタルト直チニ本案ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス故ニ通常

ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可キノ言
渡ヲ爲スナリ

一 重罪裁判所閉廳後故障申立ノ場所及ヒ其判決
ノ解

○村田氏曰ク此二條ニ於テハ故障ヲ爲スニ付テノ手續ヲ
定メタル者ナリ故障ノ申立ハ重罪裁判所閉廳前ニ於テ
ハ欠席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可キ者ト
ス重罪裁判所ニ於テ故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル
時ハ更ニ通常ノ規則ニ從ヒ對審裁判ヲ爲ス可シ○欠席
裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ニ於テハ重罪裁判
所ヲ開キタル地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ヲ爲ス可
シ控訴裁判所ニ於テ故障ノ理アリトスル時ハ重罪裁判

所ニ於テ更ニ對審裁判ヲ受ク可キノ言渡ヲ爲ス可シ治罪

法註釋第七卷
第四十三葉

○薩埵氏曰ク此條ハ重罪裁判所閉廳後ニ故障ノ申立ヲ爲
サントスルニハ如何ナル裁判所ニ之ヲ爲スヘキヤヲ定
メ且ツ其以後ノ手續ヲ規定スルモノナリ○嘗テ第七十
一條ニ定ムル如ク重罪裁判所ハ常置ノモノニ非ス其一
期間ノ事件ヲ落着セシ後ハ一旦閉廳スルモノナリ故ニ
其閉廳後ハ何レノ裁判所ニ故障ヲ爲ス可キ乎ハ豫メ之
ヲ法律ニ明定セサレハ被告人ハ幾ト其途ニ迷フコトアル
可シ是此條ノ規則アル所以ナリ○此條ニ規定スル所ニ
據レハ重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判
所ニ故障ヲ爲ス可キモノトセリ蓋シ重罪裁判所ハ或ハ

シタル後ニ非サレハ執行ヲ爲スヲ得ス
 二 送達ヲ爲スハ書記ノ擔任ナルヲハ總則第二十二條
 ニ於テ判然タリ故ニ檢察官其他訴訟關係人第三百
 三十二條第四百五條ニ從ヒ言渡書ノ送達ヲ請求ス
 ルハ裁判言渡アリタル後書記局ニ之ヲ爲サレ可
 カラス
 三 重罪ト輕罪以下トヲ問ハス闕席裁判言渡書ノ送達
 ハ闕席人又ハ其住所ニ之ヲ爲サレ可カラス又本
 人ニ送達スルニ付テハ固ヨリ異論ナシト雖モ住所
 ニ送達スルニ付テハ到底總則第二十三條ノ規則ニ
 從ハサル可カラス然レモ同居ノ親屬又ハ雇人ニ書
 類ヲ渡スヲ能ハサル場合ニ於テ戶長ニ之ヲ渡スモ

送達シタルモノト看做ス可カラス是レ通常ノ送達
 ト異ナル所ナリ故ニ第三百三十二條第一項第四百
 五條ニ於テ特ニ本人又ハ其住所ニ送達ス可キヲ
 明示セリ
 四 闕席人ニ付テノ言渡書ノ送達ハ對審人ニ付テノ裁
 判言渡ト同一ナリトス故ニ言渡書ノ送達ナキハ
 其言渡ノ確定セサルノミナラス刑ノ期滿免除ヲ待
 タスシテ公訴ノ期滿免除ヲ得ヘキモノトス
 ○ 闕席裁判言渡ニ對スル故障ノ期限
 一 違警罪及ヒ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ闕席裁判ニ
 對スル故障ノ期限ハ闕席人訴訟アリタルヲ知ル
 ト知ラサルトニ拘ハラヌ三日ナリトス蓋シ是等ノ

刑ハ輕微ナルニ因リ闕席裁判ヲ爲スニ付キ第二百六十九條ノ規則ヲ適用スルコトナク且裁判言渡書ヲ本人ニ送達セスト雖モ住所ニ送達シタルキハ僅ニ三日ヲ以テ直ニ確定ス可キナリ然ルニ微罪ト雖モ私訴ニ付テハ意外ノ金額ヲ要求スルコトナシトセス是亦三日ヲ以テ確定ス可キニ因リ遠國ニ旅行シタル被告人ハ不當ノ賠償ヲ擔當ス可キコトアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ被告人ノ親屬又ハ雇人ヨリ事情ヲ申立テ公判ノ延期ヲ求メ裁判所ニ於テハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ許スコトアル可シ

二 禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ハ闕席人訴訟アリタルコトヲ知ラサル場合ハ

刑ノ期滿免除ノ期限ト同一ナリト雖モ闕席人訴訟アリタルコトヲ知リタル場合ハ其期限三日ナリトス蓋シ訴訟アリタルキハ裁判言渡アル可キコトヲ知リタル者ト看做サハル可カラス第三百五十六條ニ依ルキハ第一被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立タル時トアリ豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立タルトハ附帶ノ事件ニ付キ裁判ヲ求メタルヲ謂フ若シ其申立ナキキハ本案ノ辯論ニ取掛リタルヲ以テ制限ト爲サハル可カラズ第一ノ制限ハ頗ル寛ナルヲ覺フ何トナレハ本人自ラ呼出狀ノ送達ヲ受ケタル時又ハ本人自ラ出廷シタル場合ハ既ニ訴訟アリタルコトヲ知リタル者ト看做スモ妨ナキニ似タリ

然レモ法律ノ明文ヨリ嚴ニスルハ仮令條理ニ適スルモ之ヲ許サハル可シ第二裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時トアリ單ニ其住所ニ送達シタルノミヲ以テ本人ハ訴訟アリタルコトヲ知リタル者ト看做ス可カラサルハ言ヲ待タサルナリ第三被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタルノ證アル時トアリ裁判執行トハ被告人捕ニ就キタル場合ヲ謂フ唯罰金若クハ要償ノ言渡等ヲ執行ス可キ爲メ被告人ノ財産差押ヲ爲シ又ハ資力限身代限等ノ處分ヲ爲シ是等ノ處分アリタルコトヲ知リタルト看做ス可キ證アルノミニテハ頗ル不充分ナリトス故障ノ期限ハ言渡書ノ送達アリタルヨリ之ヲ起算ス可

三

シト雖モ豫メ訴訟アリタルコトヲ知ラヌシテ言渡書ノ送達アリタル後之ヲ知リタルキハ始テ知リタルヨリ其期限ヲ起算ス

重罪ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ハ被告人捕ニ就キタル場合ハ十日ナリトス其十日ノ期限ハ被告人ヲ裁判所々在ノ地ノ監倉ニ引致シタルヨリ之ヲ起算ス其他ノ場合ハ刑ノ期滿免除ノ期限ト同一ナリトス蓋シ刑ノ期滿免除ノ期限ハ刑ノ言渡確定シタルニ非サレハ之ヲ適用シ難シ何トナレハ刑ノ期滿免除ヲ得ルハ証憑ノ湮滅スルニ非スシテ單ニ記念ノ消散スル一点ニ在リ社會ハ未タ刑ノ言渡確定セサル者ヲ犯人視ス可カラヌ犯人視セサル前ニ於

テ記念ノ消散ス可キ理アラシキ故ニ闕席裁判言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ヲ得ルヨリモ公訴ノ期滿免除ヲ得ルヲ以テ相當ナリトス然レモ法文ハ之ニ反ス又仮令刑ノ期滿免除ヲ得ルモ其期限ハ言渡書ノ送達ヨリ之ヲ起算ス可キニ似タリト雖モ其送達アリタルキハ言渡ノ効力既往ニ溯ルヲ以テ刑法第六十一條ニ裁判言渡ヨリ之ヲ起算ス可キヲ定ムルモノトス刑ノ言渡確定シタル場合モ亦同シ

○ 闕席裁判ニ對スル故障ノ手續

一 故障ヲ爲サントスル者ハ其期限内ニ申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ若シ重罪事件ニシテ重罪裁判所閉廳ノ後ナルキハ次會ノ開廳中ト雖モ管

轄控訴裁判所ノ書記局ニ申立書ヲ差出ス可シ第四百九條第一項ニ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後トアルハ閉廳中トノ文義ニ非ス畢竟次會ノ重罪裁判官ハ必スシモ原裁判官ナルニ非ス闕席裁判ノ書類モ亦控訴裁判所ニ藏置ス可キヲ以テ此便法ヲ設ケタルモノトス

二 第三百三十三條第一項第四百八條第二項以下ニ故障ノ申立ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ先ツ之ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決シ云々トアリ頗ル困難ナル法文ナリト雖モ故障ノ原由ハ豫メ之ヲ申立ツルニ及ハス又之ヲ判決スルヲ要セサルニ因リ唯故障ノ期限又ハ第三百五十六條ニ定メタル三箇ノ場合及ヒ第

四百七條但書ニ定メタル場合等ニ付テ先ツ故障ノ申立ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決スルヲ謂フ其判決ノ方法ハ大審院願訴局ノ手續ト同一ニシテ對手人ト對審セシムルヲ要セス公廷ニ於テ故障申立人ノ陳述及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決ス可シ裁判所ニテ故障ヲ受理セサルノ言渡アリタル場合ニ於テ申立人ヨリ上訴ヲ爲シタルキハ通常ノ規則ニ從ヒ對手人其上訴ニ關係セサルヲ得ス民事原告人ノ如キハ受理不受理ノ判決ニ干預スルヲ得サルヲ以テ私訴ノ本案辯論前故障受理ス可カラサルノ申立ヲ爲スヲ得ヘシ

三

故障ヲ受理ス可キノ判決アリタル後故障ノ裁判ヲ

爲スハ違警罪輕罪重罪各通常ノ規則ニ從フ唯訴訟關係人呼出ノ猶豫ハ對手人ニノミ之ヲ與フ可キモノトス第三百三十三條第一項對手人ニ送達ス可キ呼出狀ノ規則ハ重罪事件ニ關スル私訴ノ對手人ニモ之ヲ適用セサル可カラス然レモ呼出ノ猶豫期限ハ第三百八十五條證人呼出ノ猶豫期限ト牴觸ス可カラサル爲メ三日ヨリ少カル可カラス故障ノ申立人ヲ呼出スニハ猶豫ノ期限ヲ與フルニ及ハスト雖モ第三百三十三條第二項ニ從ヒ公判ノ前日マテニ呼出狀ヲ送達セサル可カラス若シ故障申立人重罪ノ被告ナナルキハ公訴狀ノ送達ヨリ五日ノ猶豫ヲ與フ可キハ言ヲ待タサルナリ

四

闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後其管轄控
 訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲シ受理ス可キノ判決ア
 リタルキハ第四百九條第二項ニ從ヒ其事件ヲ原重
 罪裁判所ニ移シテ更ニ裁判ヲ受ケシメ又ハ控訴裁
 判所所在ノ地ノ重罪裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシム
 ルモ妨ナカル可シ蓋シ重罪裁判所ハ管轄控訴裁判
 所ニ開廳シ且控訴裁判所ノ官吏ヲ以テ構成スルヲ
 本則トス若シ輕罪ノ被告人ナルキハ管轄輕罪裁判
 所ニ移シテ更ニ裁判ヲ受ケシメ又ハ控訴裁判所ニ
 於テ直ニ裁判ヲ受ケシムルヲ得

五

第三百三十四條末項ニ故障ノ裁判ニ闕席シタル者
 ハ故障ヲ許サ、ルヲ定ム蓋シ前闕席裁判ニ闕席

セサル者ニモ適用ス可キ法文ナリトス此規則ハ重
 罪事件ニ關スル民事原告人民事擔當人ニ之ヲ適用
 スルモ妨ナキニ似タリ然レトモ重罪被告人ニ之ヲ
 適用ス可カラス何トナレハ輕罪ニ付テハ被告人訴
 訟アリタルヲ知ルト否トニ付キ故障ノ期限ニ差
 異アリト雖モ重罪ニ付テハ被告人訴訟アリタルヲ
 知ルト否トニ付キ故障ノ期限ニ長短ナキヲ以テ
 判然タル可シ又闕席裁判ヲ受ケタル者ハ故障ヲ爲
 サスシテ直ニ上告ヲ爲スヲ得スト雖モ第三百三
 十九條第一項ニ從ヒ直ニ控訴ヲ爲スヲ得此規則
 ハ故障ノ裁判ニ闕席シタル者ニモ亦之ヲ適用スル
 ヲ得ヘシ

○井田氏曰ク故障ノ申立ハ原裁判所ニ爲ス可キ者ナレトモ
 重罪裁判所ハ常立ノ法廳ニ非サルヲ以テ其閉廳ノ後ハ
 控訴裁判所ニ申立テシム○控訴裁判所ニ於テ故障ヲ理
 アリトスル時ハ更ニ裁判ヲ爲サシムル爲メ重罪裁判所
 ニ移ス可シ治罪法釋要
 第二百一葉
 ○長井氏曰ク本條ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳
 スルノ後故障ヲ申立ヘキ別ノ裁判所ヲ示シ又申立以後
 ノ手續ヲ定ム治罪法註釋第
 三百二十二葉
 ○織田氏曰ク闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ニ
 於テ其裁判言渡ヲ受ケタル者故障ヲ爲スキハ其地ヲ管
 轄スル控訴裁判所ニ之ヲ申立ツ可シ○控訴裁判所ニ於
 テ其故障ノ理アリトスル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ重罪裁

判所ニ於テ更ニ對審裁判ヲ受クヘキノ言渡ヲ爲ス可キ
 ナリ○本條モ亦前條ト同シク故障ヲ爲スノ手續ヲ説ク
 モノニシテ其文意極メテ明瞭ナレハ解説ヲ要セス治罪法
 註釋第
 六百五十
 三四葉
 ○詳解ニ曰ク重罪裁判所ハ常立ノモノニ非ス故ニ其閉廳
 サレタル時ニ於テ故障ヲナサントスルモノハ素ヨリ期
 限アルモノナレハ或ハ之カ閉廳ヲ待ツ能ハサル事アル
 ヘシ此場合ニ於テハ重罪裁判所閉廳ノ事ヲ主管スル所
 ノ控訴裁判所ニ之ヲナスヘキヲ定メ而シテ其故障ヲ
 受理スヘキモノナリヤ否ヲ決スル亦タ遲緩スヘカラサ
 ル事ナルカ故ニ控訴裁判所ニ於テ之カ判決ヲナスヘキ
 ヲ命シタルモノナリ治罪法詳解第十
 八號第五十六葉

○森氏曰ク闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ノ控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ其控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理スヘキ者ト判決シタルキハ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ケシム可シ治罪法註解大成 第二百四十四條
 編者曰ク右諸氏ノ說皆允當ナリ

稟告

- 法理原論 卷一 洋裝一冊 鳩山和夫 定價金七拾五錢
- 同 卷二 同 一冊 小野徳太郎 譯
- 同 卷三 同 一冊 同 八 譯 同 金壹圓廿五錢

本邦從來法律ノ一端ヲ論スル譯書尠カラスト雖モ其汎ク全體ニ渉ル書ニ至テハ殆ント寥々ノ晨星是レ大ニ法律社會ノ遺憾トスル所ナリ此書ハ當今博識卓見ヲ以テ其名ヲ顯シタル英國ノ法理學士ウイリアムマクベ氏ノ所著ニ係リ法律一般ニ適應スル所ノ原理ヲ簡明ニ論述セシモノニシテ其論理至正引據確實最モ法律書中ノ粹タリ苟モ法律ニ從事スル者ハ其研究家ト實務家ヲ問ハス政治家ヲ以テ自ラ任スルノ士モ亦玩讀スヘキナリ請フ一本ヲ購ヒ其言ノ虛ナラサルヲ知ラント

二

- 頭 刑法解釋 同 洋裝一冊 島田玄十郎解 定價金三十五錢
- 頭 治罪法解釋 同 一冊 同 人 解 同 金四十錢
- 同 合 本 同 一冊 同 同 金七十五錢
- 稅 法 類 編 同 一冊 大藏省租稅局編 同 金一圓廿五錢
- 稅 則 提 要 小 本 一冊 同 同 金二十錢
- 治罪法異同辨合本

- 第一卷 自第一號 定價金壹圓
- 第二卷 自第十六號 五拾八錢
- 第三卷 自第三十一號 同 金貳圓
- 第四卷 自第四十七號 定價金貳圓
- 第五卷 自第六十一號 同 金壹圓
- 第六卷 自第六十九號 同 金壹圓

東京日本橋通壹丁目 北畠茂兵衛

千鍾房現刷書目ノ内

- 四 書 集 註 大十冊 佐藤一齋先生 定價金一圓五十錢
- 同 字 引 畧 註 小一冊 後 藤 点 同 金 十 錢
- 訂 正 音 訓 五 經 大十一冊 東條方庵先生 同 金 二 圓 十 錢
- 同 字 引 畧 註 小一冊 山本滋三良著 同 金 十 三 錢
- 經 典 釋 詞 大五冊 清高郵王引之著 同 金 一 圓
- 經 訓 堂 墨 子 同五冊 明頂帶畢沅撰 同 金 一 圓
- 王 注 老 子 道 德 經 同二冊 魏王弼註 唐六德明音義 日本字惠考訂 同 金 三 十 五 錢
- 補 義 王 註 老 子 同 近刻 東條保增訂訓点 同 金
- 英 標 小 學 定 本 半四冊 岡本賢藏校訂 同 金 七 十 錢
- 忠 經 畧 解 同 一冊 水澤成肅解 岡松藝谷閱 同 金 八 錢
- 御 註 孝 經 同 一冊 歷堂野賀先生 註 同 金 十 八 錢

二 ○小學中等科讀本 和文 半六册 岡本賢藏編次 定價金一圓二十四錢

○同 漢文 同二册 近刻 同 同 金

○小學修身幼訓 首編同二册 初等同五册 中等同六册 木澤成肅纂 浦生重章校閱 同 金一圓廿錢

○修身女訓 同六册 岡本賢藏編次 岡松斐谷校閱 同 金七十八錢

○小學忠孝訓 同一册 齋藤馨著 同 金五錢

○九子品彙 洋一册 加山安衛纂輯 同 金三十八錢

○操觚字訣 半十册 伊藤東崖著 同 金一圓八十七錢五厘

○同 補遺 同三册 近刻 同 同 金

○幼學新書 同二册 森楓齋著 同 金一圓

○古文後集鈔解 中一册 辻鎌之助編輯 東條保閱 同 金十五錢

書肆 東京日本橋通壹丁目十五番地 須原屋 北畠茂兵衛

千鍾房現刷書目ノ内 但シ法華宗書目ハ別ニ有之候

○天台四教儀 大一册 諦觀法師著 定價金二十五錢

○遺教經節要 同一册 沙門惠印校訂 同 金三十五錢

○二師語錄 同二册 同 同 金五十錢

○求化微糧談 同廿册 吉岡信行禪師著 同 金七圓廿五錢

○破邪顯正論 半一册 同 同 金四十五錢

○耶蘇教新論 洋一册 高橋二郎論述 同 金三十錢

○發願回向文 一折 吉岡信行禪師著 同 金五十錢

○釋迦如來大和證 一折 同 同 金八十錢

○葬祭法要文 一折 同 同 金廿錢

○邪正問答編 半二册 同 同 同 金

○金剛錦科解 大一册 痴空著 近刻 大炊晴澄增訂 同 同 金

二 ○般若理趣分 並製 一折 慈海宋順校 定價金 一圓

○同二拔合金欄表紙 一折 同 金三圓七十五錢

○般若心經 一折 加藤有聲傍訓 同 金二錢五厘

○聖不動經 一折 同 同 金三錢

○大聖無動經 一折 同 同 金十二錢

○御嶽山常用集 一折 同 同 金廿錢

○高王觀音經 一折 不詳 同 同 金四錢

○訂王法論 半一冊 鳥尾得庵居士著 三輪清吉校訂 同 金二十五錢

○心地觀經報恩品 同一冊 明道協會藏板 鳥尾得庵居士訓點 同 金二十錢

○十善法語 洋一冊 明道協會藏板 葛城慈雲尊者示衆 同 金五十錢

○明道協會要領解說 中一冊 鳥尾得庵居士授 同 金八錢

書肆 東京日本橋通一丁目十五番地 須原屋 北島茂兵衛

千鍾房現刷書目ノ内

○日本全史 本紀 半十冊 高谷瀧洲著 定價金二圓五十錢

○同世紀世家列傳 同 同 同 金

○讀史論畧 大一冊 笑齋石坂先生閱 同 金三十五錢

○校正王代一覽 大八冊 林道春先生著 高田義甫註 同 金三圓七十五錢

○同後編 大六冊 高田義甫著 同 金一圓三十七錢五厘

○釐頭十八史畧譯解 半十二冊 沖冠嶺編 同 金三圓五十錢

○日本書紀訓考 大五冊 關四良太夫人解 同 金二圓

○同六卷以下 同 同 同 金

○外史譯語 中二冊 大森惟中同纂 同 金七十五錢

○同譯名 同一冊 鈴木真年校正 橋爪貫一編纂 同 金四十錢

○先哲叢談續編 大六冊 琴臺東條先生著 齋藤拙堂岡松 同 金二圓廿五錢

二

- 皇朝蒙求 半三冊 山下直温著 定價金一圓廿錢
 - 同字引 中一冊 山下直太郎編 同金十二錢
 - 唐土名妓傳 半一冊 山崎長卿著 同金二十五錢
 - 筆法蒙引 大二冊 赤井得水纂 同金五十錢
 - 草聖彙辨 大八冊 皇國永根文峯校 清朱迦陵摹辨 同金
 - 北海道地理小志 半四冊 今井徵編輯 同金九十錢
 - 熊野遊記 大三冊 北島恪齋著 同金六十五錢
 - 下野國志 十二冊 河野守廣大人著 同金一圓六十錢
 - 利根川圖志 同六冊 赤松宗善著 同金一圓
 - 日光山志 同五冊 植田孟緒著 同金
 - 唐土名山圖會 同三冊 芙蓉先生寫 同金六十錢
- 書肆 東京日本橋通壹丁目十五番地 須原屋 北島茂兵衛

千鍾房現刷書目ノ内

- 古今和歌集 中二冊 朝生瀨左工門 校正 定價金三十錢
- 土佐日記考証 大二冊 岸本由都流考証 同金六十五錢
- 百人一首新抄 同一冊 石原正明註釋 同金二十錢
- 同美はる抄 同一冊 同人註釋 同金二十五錢
- 自讚歌 同二冊 海野遊翁著 同金五十錢
- 難語考 同三冊 池庵守部大人著 同金一圓
- 更科日記 同一冊 西門蘭溪標註 同金四十錢
- 助辭本義一覽 半二冊 橘守部大人著 同金四十錢
- 石竹集 同一冊 天野御民著 同金二十錢
- 同風歌集 同六冊 飯山綱之助編輯 同金一圓五錢
- 插花衣之香 同十六冊 遠州流貞松齋 同金二圓

- 二 ○插花千代之松 半三册 一松齋撰 定價金五十錢
 - 同庭之松 同四册 庭松齋撰 同金五十錢
 - 瓶史國字解 大十一册 練雲齋撰 同金一圓六十錢
 - 茶湯早指南 中一册 月齋我局山人著 同金十五錢
 - 清灣茗宴圖志 中三册 山中吉郎兵衛著 同金
 - 三聲曲類纂 大六册 白雪堂月岑子編 松高雪提先生書 同金一圓三十錢
 - 下懸嘶謠 中一册 編者不詳 同金五十錢
 - 吾嬀箏譜 同二册 山田檢校作 同金二十錢
 - 大雅堂山水畫式 大二册 韓大年縮 同金三十錢
 - 蕙齋畧畫 同一册 蕙齋畫 同金四十錢
 - 同畧畫苑 同一册 同人畫 同金四十錢
- 書肆 東京日本橋通壹丁目十五番地 須原屋 北畠茂兵衛

千鍾房現刷書目ノ内

- 斯氏農書 大三十册 岡田好樹譯 定價金九圓四十五錢
- 同後編 同三十册 岡田好樹譯 同金
- 斯氏農業問答 半三册 後藤達三譯 同金六十二錢五厘
- 農政本論 同四册 佐藤信淵著 同金一圓
- 米穀豐遠農業傳 同二册 德島糸造著 同金五十錢
- 培養秘錄 同四册 佐藤信淵著 同金七十五錢
- 土性辨 同三册 同著 同金七十五錢
- 農家矩 同二册 同著 同金五十錢
- 泰西農業勸獎法 同二册 大藏省藏板 同金六十五錢
- 慮粟砂糖製造法 中一册 稻垣重爲編纂 同金二十五錢
- 草木錦葉集 大八册 氷野翁著 同金一圓八十錢

二 ○地方凡例錄

小廿冊 大石猪十郎著述 定價金二圓五十錢

○改正 算法地方大成 同四冊 橋爪貫一校正 同 金五十錢

○算法量地詳解 大三冊 市川運八郎編 同 金五十錢

○算法起原集 同四冊 松澤鏡藏編 同 金一圓

○最上 算法天生法指南 同五冊 元祖自在先生著 同 金一圓

○同 算法古今通覽 同五冊 同 同 金一圓

○關 算法點竄指南 半三冊 長谷川善左門編 同 金四十五錢

○早 割算盤手引 中二冊 梅田先生編 同 金四十五錢

○常用 曲線 半一冊 中村精男校閱 同 金三十錢

○小學 珠算入門 半八冊 赤井周行抄譯 同 金一圓三錢

○小學 筆算書 同六冊 山下健三編纂 同 金一圓六十五錢

書肆 東京日本橋通壹丁目十五番地 須原屋 北畠茂兵衛

千鍾房現刷書目ノ内

○幼學 詩韻 半二冊 成德麟同輯 定價金四十錢

○同 三編 同一冊 東條琴臺輯 同 金二十錢

○詩韻 幼學便覽 中四冊 平井篤次編 同 金七十錢

○詩學 小成 中四冊 千葉莖之輯 同 金五十錢

○漢文 作法 小一冊 關口宇之助著 同 金二十錢

○皇國 文法階梯 大一冊 高田義甫著 同 金三十五錢

○女用 文小倉錦 中一冊 編者不詳 同 金十七錢

○女醫 必讀 女訓 大一冊 高田義甫著 同 金三十五錢

○漢語 註釋 用文 中一冊 岡部啓五郎輯 同 金三十錢

○四季 名寄 小一冊 高井茶山著 同 金十五錢

○日本 美談 洋一冊 前田正名著 同 金四十五錢

二

- 平仮名入 主從心用草 半十册 壽福軒述 定價金壹圓五十錢
 - 平仮名入 日用心法鈔 同十五册 同 述 同 金二圓五十錢
 - 利 運 談 同三册 宇貝柴考 同 金五十錢
 - 脩 身 談 中三册 石井光致著 同 金三十錢
 - 曆 日 諺 解 半一册 柳精子著 同 金二十錢
 - 和 漢 年 曆 箋 一折 西野古海輯 同 金十七錢
 - 御 嶽 祝 詞 集 一折 大教正特賜從六位神道御嶽放管長平山省齋君撰 同 金二十錢
 - 諸 神 拜 詞 記 正 訓 一折 白幡義篤撰 同 金二十錢
 - 鍼 灸 廣 狹 神 俱 集 半一册 雪樓子著 同 金十八錢
 - 鍼 灸 說 約 中一册 石坂宗哲著 同 金十八錢
 - 假 名 安 驥 集 大六册 道派與謹著 同 金一圓三十錢
- 書肆 東京日本橋油壺丁目十五番地 須原屋 北畠茂兵衛

千鍾房發兌諸家藏板書ノ内

- 日 本 公 債 辨 洋一册 大藏省藏板 定價金六十錢
- 貨 幣 條 例 備 考 半一册 同 同 金二十錢
- 米 國 貨 幣 取 調 書 洋一册 同 同 金十二錢五厘
- 巴 華 厘 亞 稅 法 半三册 同 同 金一圓十五錢
- 合衆 王國 內 國 稅 年 報 編 纂 書 洋一册 同 同 金六十錢
- 砂 糖 耕 作 法 洋一册 同 同 金二十錢
- 經 濟 要 說 同二册 同 同 金五十五錢
- 經 濟 叢 書 同三册 同 同 金十五錢
- 銀 行 大 意 同二册 同 同 金十五錢
- 公 債 實 價 比 較 表 小一折 高橋作善編 同 金二十錢
- 茶 業 必 用 半二册 上林熊次郎編述 同 金六十錢

二 ○地 形 論 半四册 帆足義兼譯 定價金一圓六十錢

○日本 畧 史 洋一册 陸軍文庫藏 同 金五十錢

○必携 金泉秘錄 同一册 江口芳太郎編 同 金廿八錢

○小學 裁 縫 半一册 黒川廣子編輯 同 金廿六錢

○同 裁 形 縫 形 同一袋 同 金十五錢

○女子 習 字 帖 同三册 蘆澤鳴尾著 同 金四十五錢

○誹 階 天 爾 波 抄 同七册 北邊大人口授 同 金八十錢

○大 日 本 語 學 同一册 浦井有國筆受 同 金十五錢

○東 照 宮 御 消 息 大一册 山本嘉六著 同 金三十五錢

○菱 潭 三 体 千 字 文 半二册 筆者大宮覺寶 同 金四十五錢

○潭 香 書 秋 興 八 首 四帖 卷菱潭先生書 同 金二圓

書肆 東京日本橋通壹丁目十五番地 須原屋 北島茂兵衛

千鍾房發兌諸家藏板書ノ内

○王義之書洛神賦 一帖 王義之書 定價金三十錢

○顏真卿書管聖廟碑 四面 顏魯公書 同 金一圓廿錢

○同 袞 裝 仕 立 一帖 同 同 金二圓五十錢

○東坡書醉翁亭記 一帖 蘇東坡書 同 金一圓五十錢

○標唐宋八大家文讀本 中八册 榎木寬則編輯 同 金二圓五十錢

○畫 忠 錄 半一册 齋藤馨著 同 金二十五錢

○曾文定公文鈔 同二册 塚達鈔錄 同 金五十錢

○同 奏 議 鈔 同二册 同 同 金五十錢

○解尺 牘 奇 賞 同五册 中村元起校閱 同 金一圓五十錢

○今峴 山 片 玉 中二册 湖山小野先生閱 同 金二十錢

○解峴 山 片 玉 同 同 同 金二十錢

一 ○文 章 類 集 半三册 緒方益井抄点 同 金六十五錢

二

○幼學全書 中一冊 村田微典編輯 定價金三十五錢

○支那史論抄 中二冊 牛山民吉輯 同 金四十五錢

○柳子新論 半一冊 山縣大貳著 同 金三十錢

○點取交通論 同一冊 佐田介石著 同 金三十錢

○北支那戰爭記 薄葉 一冊 翻譯局藏 同 金十七錢

○佛國革命史 洋四冊 河津祐之譯 同 金壹圓八十錢

○國家挽回論 小一冊 藤田一郎著 同 金廿五錢

○法律原理畧 洋一冊 松井直誠著 同 金十八錢

○現行日本刑法初步 洋一冊 福鎌芳隆校閱 同 金六十錢

○日本刑法輕罪一覽 二折 判事飯田恒男編輯 同 金二十五錢

○治罪問答 洋三十六冊 矢野儀作編 同 金二圓八十八錢

書肆 東京日本橋通壹丁目十五番地 須原屋 北畠茂兵衛

千鍾房現刷書目之內

○打碁方圓新法 大 二冊 村瀬秀甫著 定價 金七十錢

○圍棋新報 同 一冊 同人編輯 同 金六錢

○同合本自第一集至第六集 同 六冊 同人編輯 同 金三圓六十六錢

○新撰碁經大全 半 一冊 秋山林著 同 金二十錢

○溪琴山房詩 大 二冊 菊池海莊先生著 同 金五十錢

○海莊詩 同 二冊 同 先生著 同 金五十錢

○良齋文集

同 七册 安積良齋先生著 金一圓十五錢

○良齋閑話

同 四册 同先生著 金九十錢

○盧洲詠物詩鈔

半 一册 植邨盧洲先生著 金二十錢

○黃石齋詩集

同 九册 岡本黃石先生著 金二圓

○日本八大家文讀本

同 四册 清欽差大臣穆蔭昌同並序
同沈文煇黃憲憲黃錫銓
同姚文棟孫汝謙合評
日本石川鴻齋批選 金一圓廿錢

○和文軌範

半 四册 里見義著 定價 金九十錢

○正續文章軌範譯解

同 六册 鈴木貞次郎解 金一圓六十貳錢五厘

○魏椒子文鈔

大 三册 清魏禧椒子著
日本安積信校 同 金六十五錢

○東坡尺牘

中 四册 岡本賢藏校訂 同 金八十錢

○唐詩金粉

半 六册 北海先生閱 同 金七十五錢

○唐宋聯珠詩格

橫 二册 根津全孝訓点 同 金三十錢

○文淵遺珠

中 五册 東江源麟輯 同 金五十二錢五厘

○三體文淵遺珠

同 二册 同人輯 同 金四十錢

○文林摘要

同 一册 五峯先生輯 同 金十五錢

四

○墨 林 奇 標

一冊

雲山先生閱

同 金 十 七 錢

○骨董 秘譯 鑑定新書

中 三冊

杉山鷄兒訓点

同 金 七 十 五 錢

書肆

東京日本橋通壹丁目十五番地

須原屋

北畠茂兵衛

明治十六年二月二十二日別製御届
明治十七年六月二日別製御届

定價金壹圓六十九錢

編輯者
兼出版人

東京平民

堀 田 正 忠

東京京橋區灘山町
二番地

大分縣平民

高 谷 恒 太 郎

東京芝區愛宕町三丁
目二番地寄留

同

和歌山縣平民

北 畠 茂 兵 衛

東京日本橋區日本橋
通一丁目十五番地

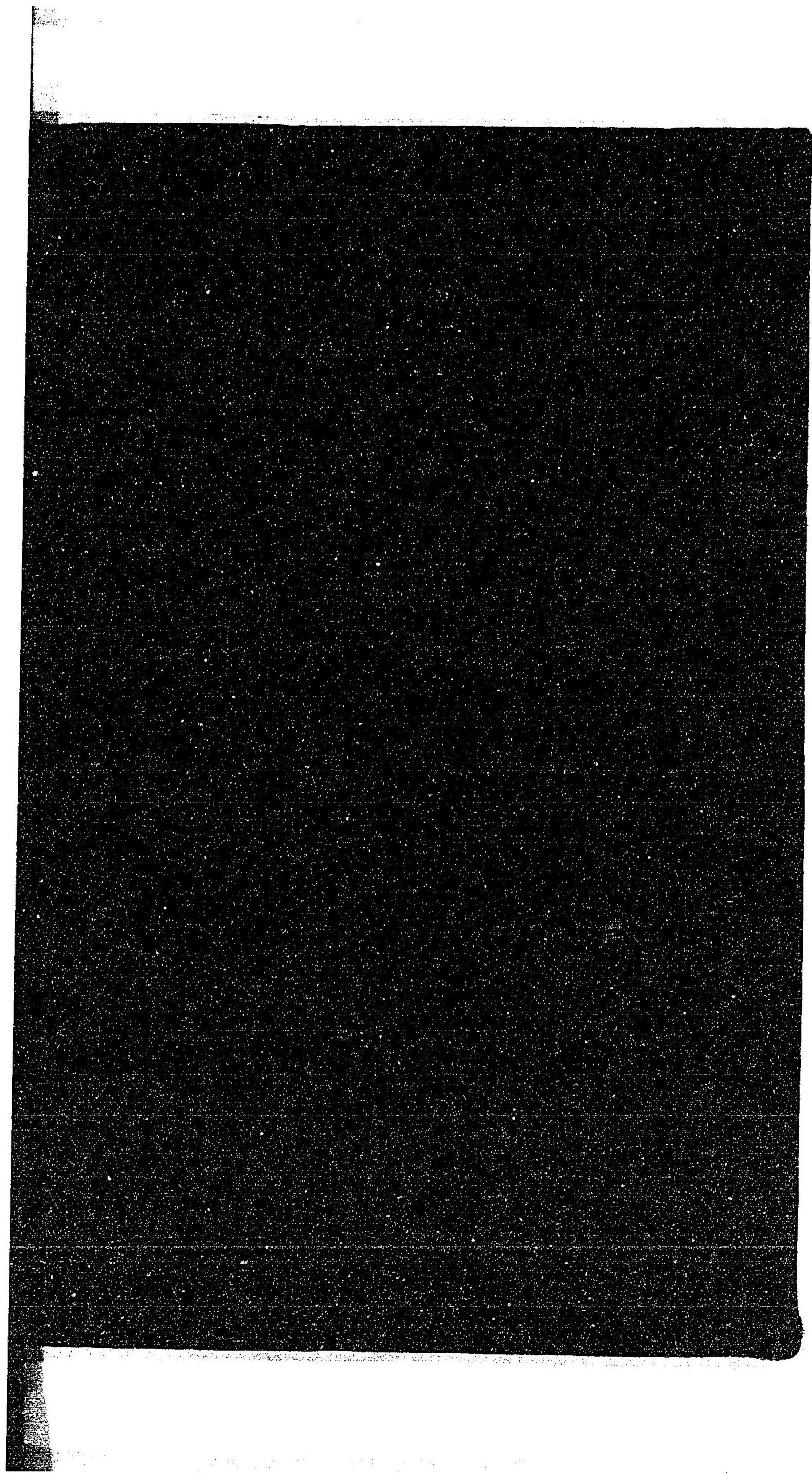
發兌書肆

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	東京
坂上	須原	北澤	稻田	山中	報	巖	博	丸	丸	丸
半七	鐵二	伊八	田佐	中市	告	々	聞	屋	屋	屋
越後北	仙臺	播	兵衛	兵衛	社	堂	社	善	善	善
蒲原郡	大町	劔路	廣島	名古屋	同本	同南	大坂	七	七	七
村山	木村	山	早	古屋	岡	久寶	心齋	西京	西京	西京
長太郎	文助	野	速	本町	島	寶寺	橋筋	河原	河原	河原
		長平	社	四丁目	真七	町	松村	町	町	町
				岡		岡	九兵衛	大	大	大
				島		島	兵衛	黒	黒	黒
				真		真		屋	屋	屋
				七		七		太	太	太
								郎	郎	郎
								右	右	右
								衛	衛	衛
								門	門	門

印刷所 日 就 社

14

45



14.7
45

東 京 圖 書 館					
八	九		三		
冊	二	六	〇		
	号	架	函	属	類

和書明

